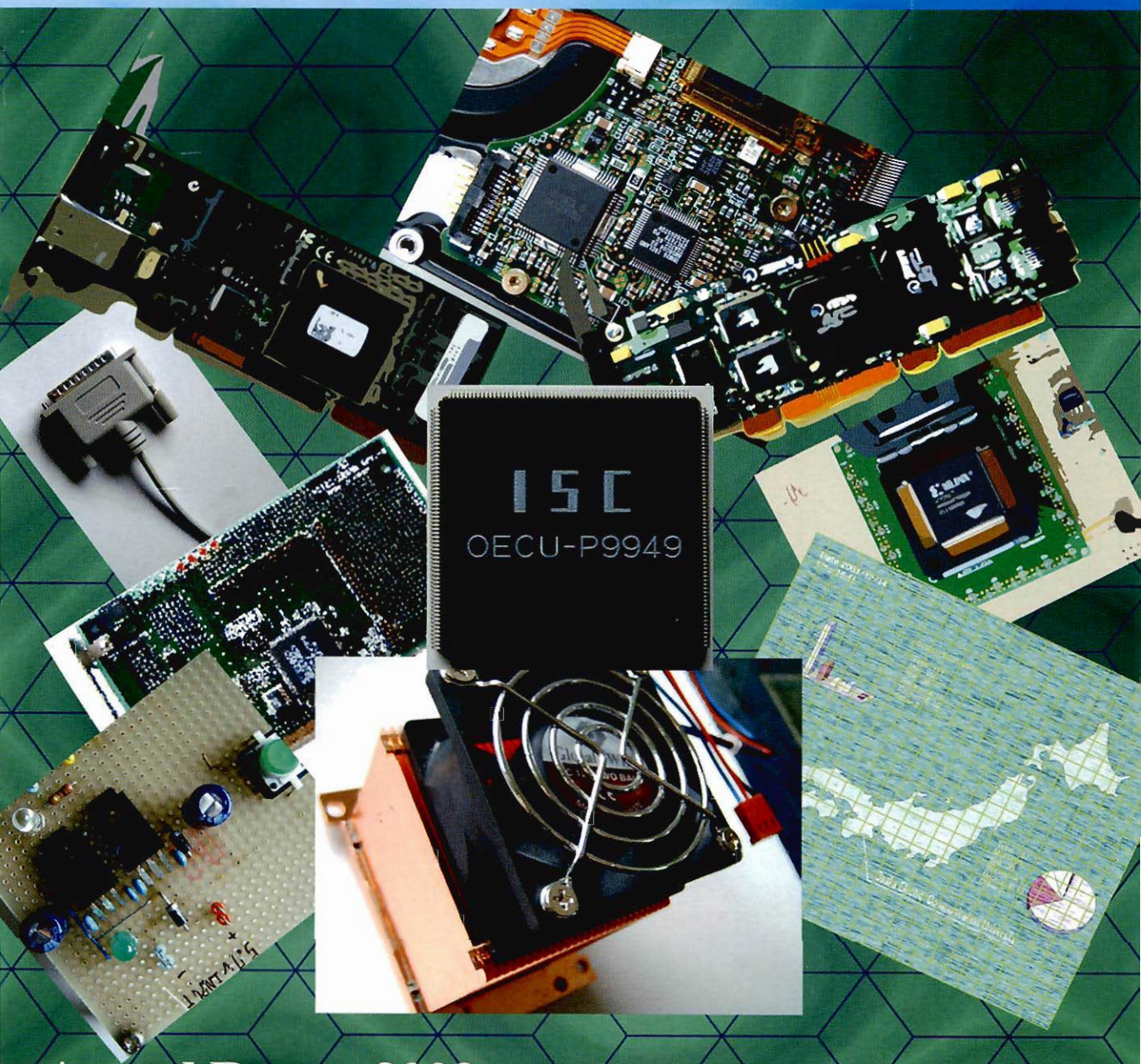


大阪電気通信大学
情報科学センター

2003年度年報



Annual Report 2003
Information Science Center
Osaka Electro-Communication University

<表紙「カガクノチカラ」について>

ISCの商売道具(の中身)を表紙にしてみました。昔の少年少女向き科学雑誌ではありませんが、「カガクノチカラ」で様々な事柄(教育や研究のサポート)を実現していければと考えています。

情報科学センター 事務室長 小池達男

2003 年度情報科学センター年報 目次

巻頭言	1
特集 ユーザーズルームでリッチメディアな研究発表素材を作ってみよう	5
平成 15 年度運用報告	21
電子メール利用状況	23
ISC 館内入室状況	25
プロキシサーバ利用状況	29
端末接続作業	31
演算クラスタ利用状況	32
平成 15 年度活動報告	35
会議／説明会等の報告	37
平成 15 年度運営委員会の報告	37
平成 15 年度 ISC 利用説明会	44
新任職員ネットワーク利用説明会	44
ISC の発行物	45
テクニカルレポート	45
それゆけ! ISC	49
新規発行マニュアル一覧	49
資料	51
情報科学センター規則	53
情報科学センター運営委員会規則	54
ISC で閲覧できる専門書籍	55
その他	57



卷頭言



センター長 水本雅晴 (総合情報学部情報工学科 教授)


2003年の4月にはSARSの原因がコロナウイルスの新種であることが突き止められました。また翌年にかけて鳥インフルエンザの発生が世界各地で確認されました。元々鳥というのは空を超え、場合によっては細菌等を広い範囲で媒介してしまいますが、それ以上に現在、人も物も世界各地を行きかいます。更に航空機を利用した場合の時間的距離は非常に近くなり、時としてこの手の「感染」は各地で一気にアウトブレイクしてしまうこともあります。

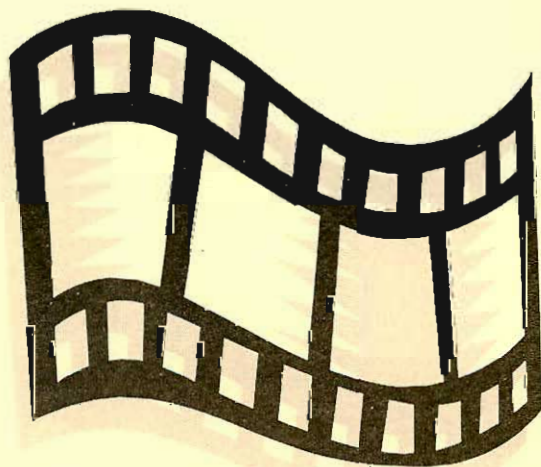
同じく「感染」というと、2001年の国内でのBSE牛の確認に続いて、2003年にはアメリカでもBSE牛発生が確認されました。そして消費者であるわれわれに大きな影響を与えることになりました。これらは、その後の牛肉のトレーサビリティ実現へとつながります。この牛肉のトレーサビリティというものは、具体的には、購入した牛肉のラベルに記述された数字から、政府系Webサイトの「牛の個体識別情報検索サービス」を利用して牛の出生年月日、種別(品種)や飼養施設とその履歴を消費者が直接閲覧可能とするものです。個人が自宅等にいながらにして様々な情報にアクセス可能であるという「インターネットの利点」を活用した国民向けサービスと言えるでしょう。

さて、ネットワーク上での流行は、良くないものも含めて、人が航空機を利用するよりも速く伝播します。2003年にはウイルスメール、スパムメールそしてスパイウェアといったものも急増し、全世界のネットワーク上のトラフィックのうち、50%以上が本来不要な通信であるという統計もあるようです。同じく2003年にはフィッシング詐欺による被害がアメリカで急増しました。日本への伝播も時間の問題と言われ、実際にあつという間にその手の電子メールが日本でも急増しました。

元々相互扶助という「善意」を持った形で発展したインターネットは、現在、非常に多くの不安材料を内包した存在になっています。しかし、現実社会とコンピュータネットワークの枠を越えて相互に補完しながら、そこに存在する不安を取り去ること、特にコンピュータネットワークについては道具として旨く利用することで、我々は、我々自身の生活をより良くしていくことを目指すべきと考えます。ただし「50%以上が…」という現状では簡単なことではありません。

ISC新システムでは、従来からのファイアウォールに加えて、学外からの電子メールに対してウイルスチェックを行うウイルスゲートウェイを導入します。コンピュータウイルス、その他のネットワーク上の攻撃に対して、1つの装置やシステムで完璧に防御された状況を作ることはできませんが、本学ユーザに少しでも「安心」してコンピュータネットワークをご利用いただけるように今後も様々なシステム設計やその変更を実施していく予定です。システム変更時には一時的にユーザにご不便をおかけすることもあります。これからも、ご理解ご協力をくださるようお願いいたします。

 特集 ISC でリッチメディアな研究発表
素材を作ってみよう

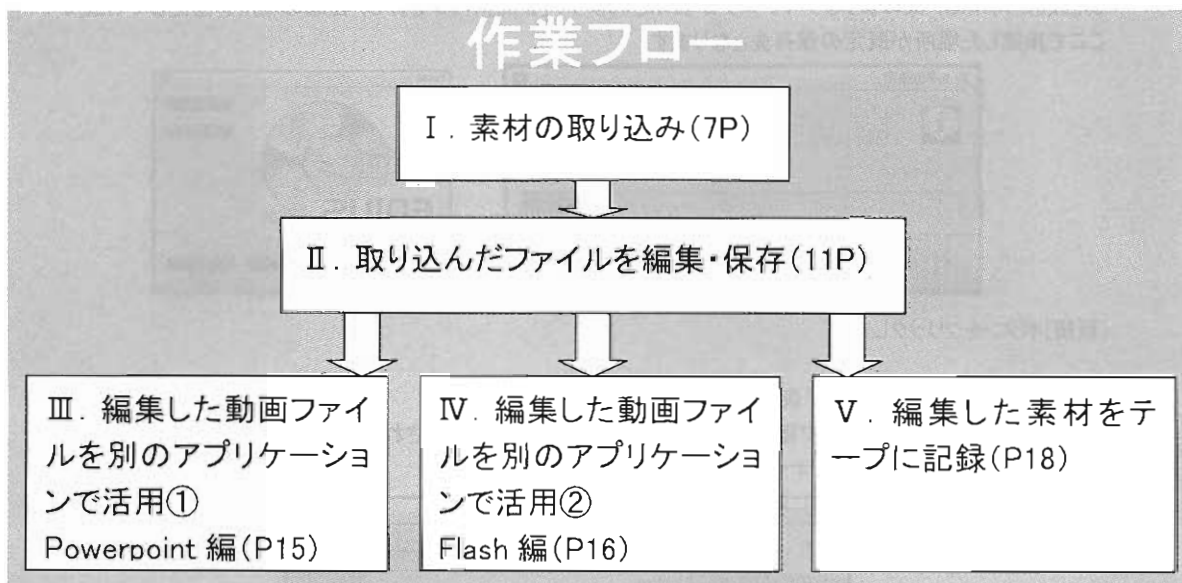


ユーザーズルームでリッチメディアな研究発表素材を作ってみよう

ISC2 階のユーザーズルームには、様々な入出力装置やソフトウェアが用意されています。

マルチメディア端末 1, 2 号機では、MiniDV、VHS 等から音声や映像等の素材を取り込み、コンピュータ上で編集することができます。また、編集したデータはファイルに保存できる他、MiniDV、VHS 等に保存することもでき、プレゼンテーションや WEB ページ等の素材作成に活用できます。

ここからは、DV、MiniDV、VHS、SVHS などから、映像信号をデジタル化してコンピュータに取り込み、研究発表素材を作成するまでの手順をご紹介します。



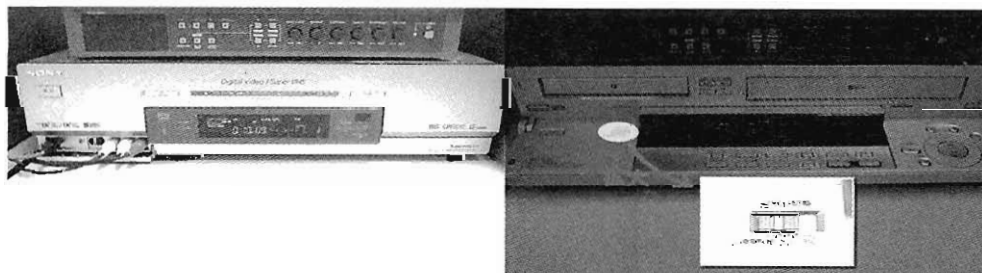
I. 素材の取り込み

素材の取り込みについて

マルチメディア端末 1, 2 号機では、DV、MiniDV、VHS、SVHS などの素材から、映像の取り込みができます。

※ビデオデッキはマルチメディア端末 1 号機に接続されています。

取り込みを行う前に、ビデオデッキの電源を入れ、取り込みを行うテープを挿入します。DV、MiniDV、VHS、SVHS からの取り込みの場合、ビデオデッキの全面パネルを開き、「出力 1 切替スイッチ」を「ノーマル(画面表示有)」に合わせ、取り込みを行う側のドライブ(DV 又は VHS)ボタンを押してください。(選択されているドライブボタンの LED が光ります)



ビデオキャプチャ

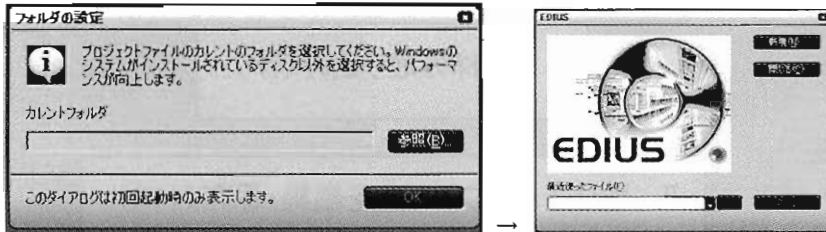
使用するアプリケーション: EDIUS

リアルタイムビデオ編集アプリケーション「EDIUS」を使えば、DV テープや VHS テープからの映像の取り込みや、映像の編集などが手軽に行えます。

次の手順でリアルタイムビデオ編集アプリケーション「EDIUS」を開きます。

スタート → [すべてのプログラム] → [Canopus] → [EDIUS] → [EDIUS LE]

初回起動時には、次のようなダイアログが表示されます。[参照]ボタンを押し、任意の場所を指定してください。ここで指定した場所が既定の保存先となります。

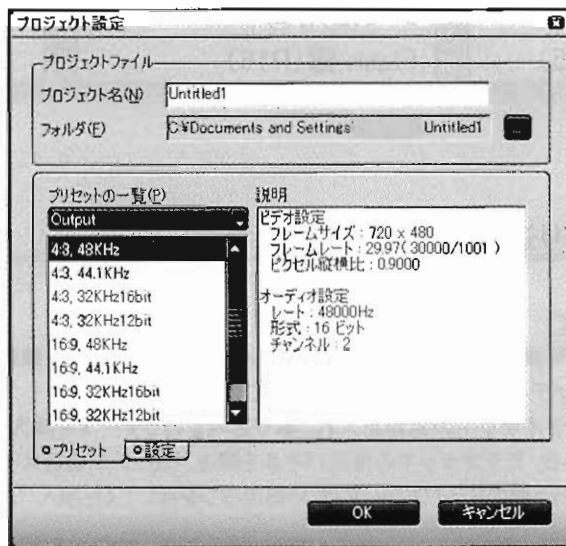


[新規]ボタンをクリックします。

[プロジェクト設定]ダイアログが表示されます。

[フォルダ]・[プロジェクト名]欄で指定した場所・名前で、ファイルが保存されます。

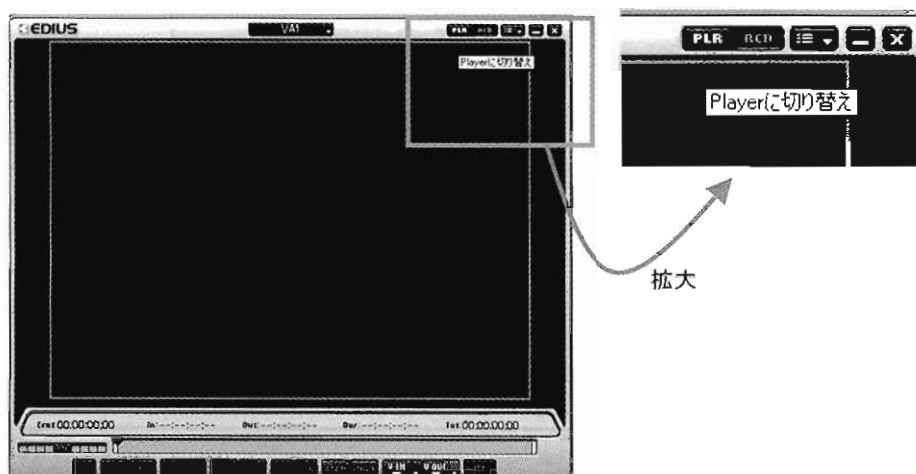
[プリセットの一覧]より、出力フォーマットを選択します。



[OK]ボタンを押してください。EDIUS が起動します。

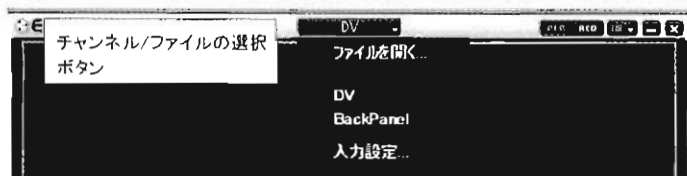


モニタウインドウの[PLR]ボタンを押し、ソースモニタへ切り替えます。

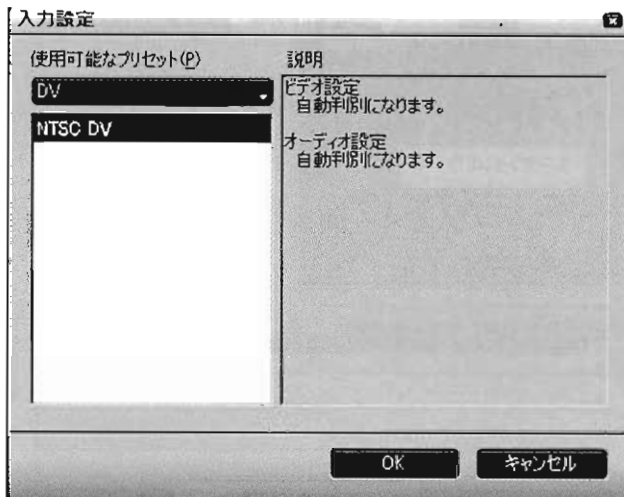


[チャンネル/ファイルの選択]ボタンより、使用するソースデータを選択します。

DV テープを使用する場合は、「DV」を、VHS を利用する場合は「BackPanel」を選択してください。



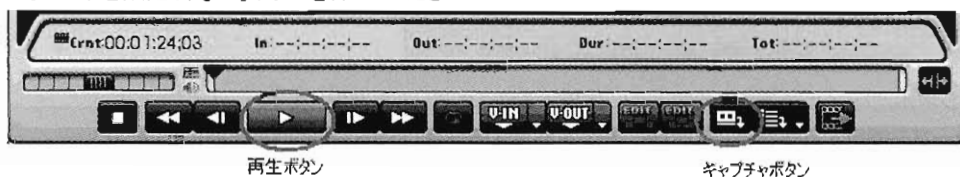
「DV」を選択した場合は、次のような[入力設定]ウインドウが表示されます。「OK」ボタンを押してください。



「BackPanel」を選択した場合は、次のような[入力設定]ウインドウが表示されます。



入力パラメータを設定し、[OK]ボタンを押してください。



それぞれのソースを再生し、[キャプチャ]ボタンをクリックします。



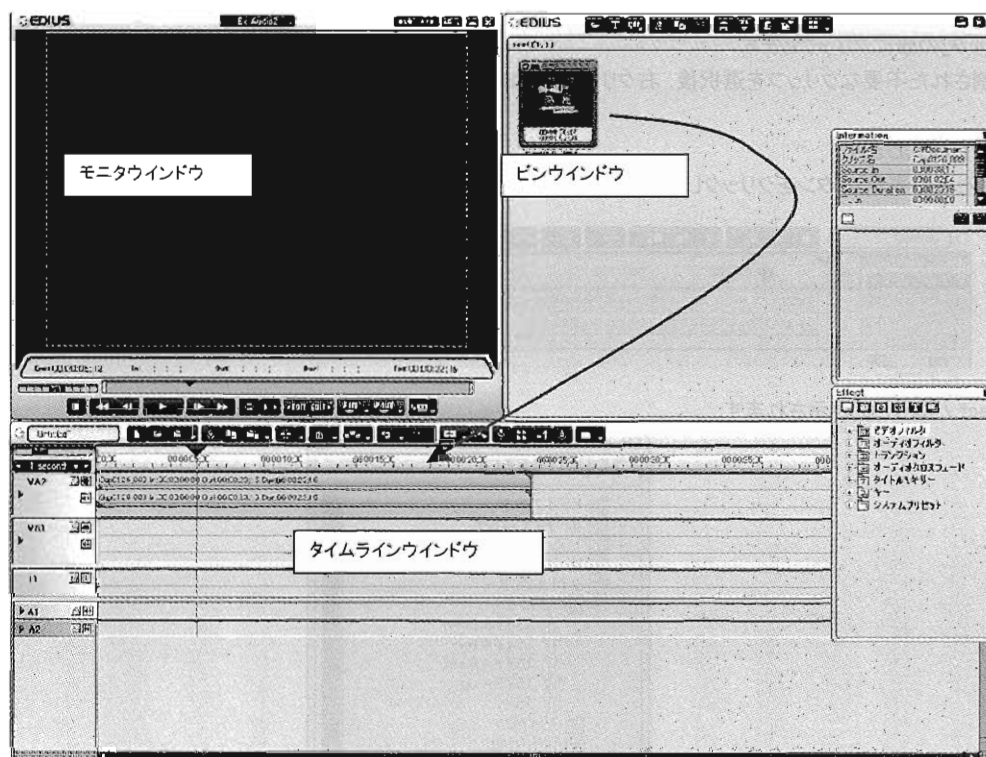
[キャプチャ]ウインドウが表示されます。[Stop]ボタンを押すと、キャプチャが終了します。

Ⅱ. 取り込んだファイルを編集・保存

EDIUS で簡易編集

使用するアプリケーション: EDIUS

[手順 I] でキャプチャしたクリップがピンウィンドウに表示されます。追加されたクリップをタイムラインヘドラッグします。

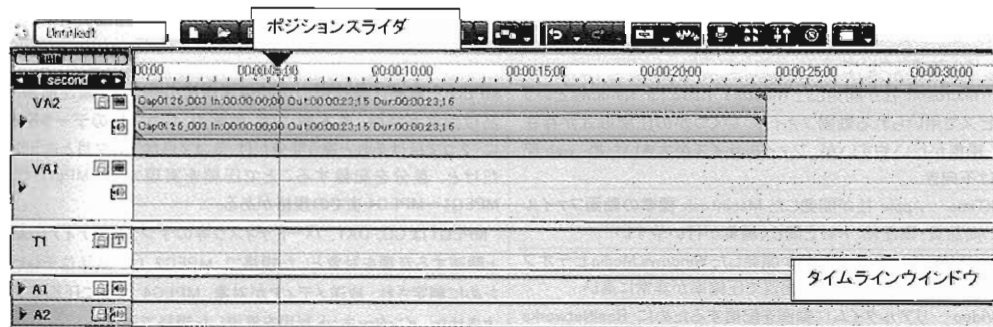


VAトラックには、ビデオクリップとそれに付随するオーディオクリップを配置します。

Tトラックには、タイトルクリップを配置します。Aトラックには、BGM やナレーションなどのクリップを配置します。

タイムラインにクリップが表示されます。

ポジションスライダをドラッグすることで、フレームの移動ができます。



作業

不要なフレームを削除します。

再生を開始したい位置にポジションスライダを合わせて、[クリップの分割]ボタン→[カーソル位置]→[選択トラック]の順にクリックします。

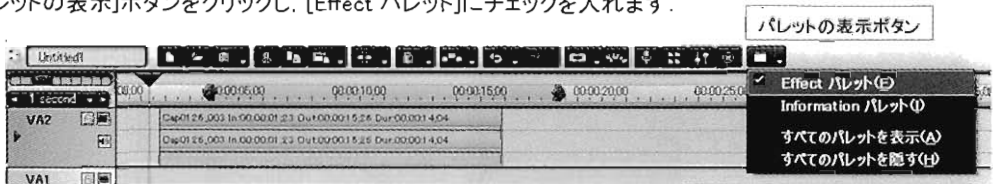


同様に、再生を終了したい位置にポジションスライダを合わせて、[クリップの分割]ボタン→[カーソル位置]→[選択トラック]の順にクリックします。

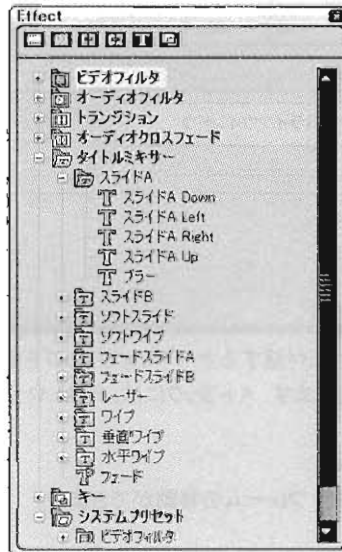
分割された不要なクリップを選択後、右クリックし、[削除]を選択します。

効果を挿入します。

[パレットの表示]ボタンをクリックし、[Effect パレット]にチェックを入れます。



Effect パレットが表示されます。



AVIファイル形式について

AVI…Microsoft 社が開発した Windows Video for Windows というサービスで用いられる動画ファイル。いくつかの圧縮形式が存在する。編集が行いやすいが、ファイルサイズが大きいため、web 配信には不向き。

QuickTime…Apple 社が開発した Macintosh 標準の動画ファイル形式。高品質・高圧縮。AVI と同じく編集が行いやすい。

WindowsMedia…Microsoft 社が開発した Windows Media ビデオファイル形式の動画ファイル。高画質で圧縮率が非常に高い。

RealVideo…リアルタイムに動画を配信するために、RealNetworks 社によって開発された規格。接続回線速度に応じて画像や音声を配信できる

MPEG…動画圧縮技術の国際標準規格の一つで、高圧縮率・高品位画質が特徴。基本的には、動画の 1 コマ目のデータをもとに、2 コマ目はそれと違う部分だけ、3 コマ目は 2 コマ目と違う部分だけと、差分を記録することで圧縮を実現する。MPEG には MPEG1～MPEG4 までの規格がある。

MPEG1 は CD、DAT、ハードディスク等のデジタルメディアの動画と関連する音響を対象とした規格で、MPEG2 は、高品位テレビのために制定され、放送メディアが対象。MPEG4 は更に圧縮率を向上させた、インターネット利用を意識した規格である。

クリップの先頭にポジションスライダを合わせ、Tトラック上で右クリック→[クリップを作成]→[インスクライパー ICG ファイル・インポーター]をクリックします。

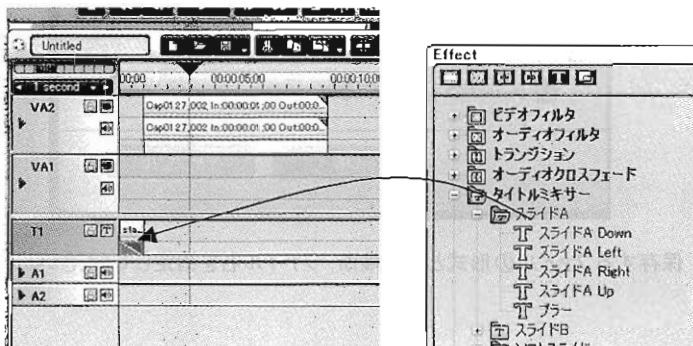
[Inscriber TE RT 2.0]ウィンドウが表示されます。タイトルとして表示するための文字列を入力してください。ここでは、用意されているテロップテンプレートを利用することもできます。



[ファイル]メニューより[保存そして終了]を選択し、任意の場所へ保存します。

挿入したタイトルクリップに効果を加えます。

Effect パレットより[タイトルミキサー]→[スライド A Down]を選択しドラッグします。



タイトル文字列が、画面の上から下へ向かってスライドするという効果が追加されました。

付録

再生ボタンを押し、再生してみましょう。イメージ通りの映像ができていたら、ファイルの保存へ進みます。モニタウインドウの[RCD]ボタンが押されている事を確認します。
[エクスポート]ボタンをクリックし、[ファイルに出力]をクリックします。



エクスポートボタン

AVI, MPEG, QuickTime, RealVideo, WindowsMedia などの形式が選択できます。



ウィザードに従い、保存するファイルの形式と保存場所、ファイル名を指定してください。

④ 「EDIUS」では、静止画像や動画、サウンドなどを挿入し、動画を編集することも可能です。詳しくはISC2階配架の「EDIUS リファレンスマニュアル」をご覧ください。

Ⅲ. 編集した動画ファイルを別のアプリケーションで活用①

※ プレゼンテーションソフト PowerPoint へ AVI ファイルを取り込み、プレゼンテーション資料を作成

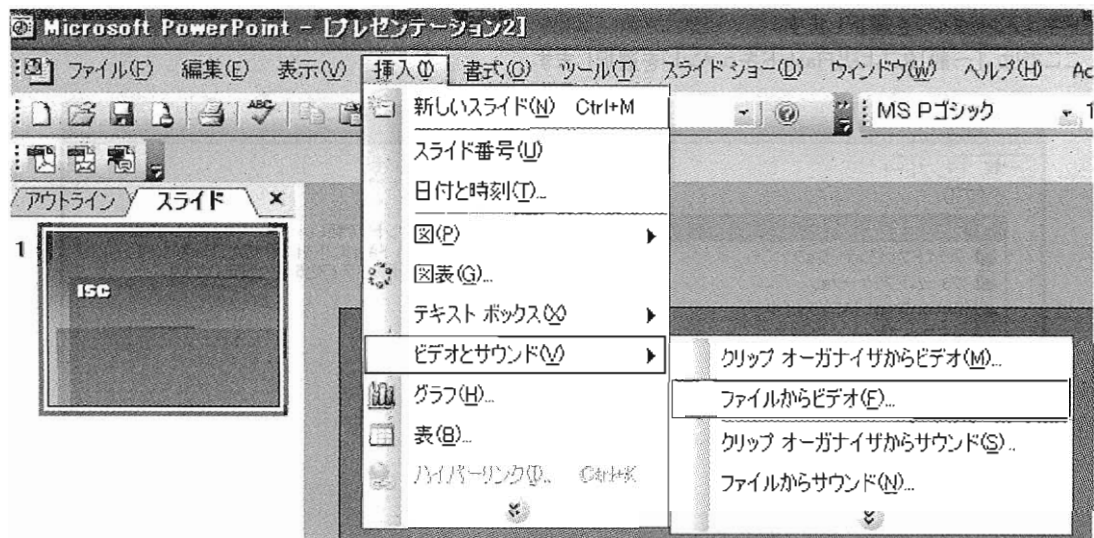
使用するアプリケーション: PowerPoint 2003

次の手順でプレゼンテーション用アプリケーション「PowerPoint」を開きます。

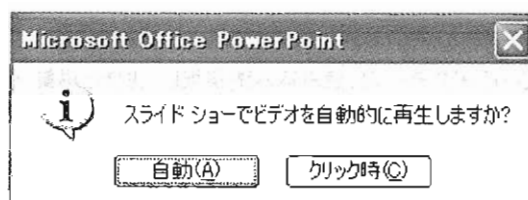
スタート → [すべてのプログラム] → [Microsoft Office] → [Microsoft Office PowerPoint 2003]

動画を挿入するスライドを選択します。

[挿入]メニューより、[ビデオとサウンド] → [ファイルからビデオ]を選択します。



挿入する AVI ファイルを選択し、[OK]ボタンを押すと、以下のようなメッセージが表示されます。必要に応じて[自動]か[クリック時]を選択してください。



映像の含まれたリッチメディアなプレゼンテーション資料の完成です。

※AVI ファイルの形式によっては、他の PC で再生できない場合があります。プレゼンテーションで利用する場合は、必ず実機でのテストを行ってください。

IV. 編集した動画ファイルを別のアプリケーションで活用②

AVI ファイルを web 用 Flash ムービーとして保存し、ホームページへ掲載

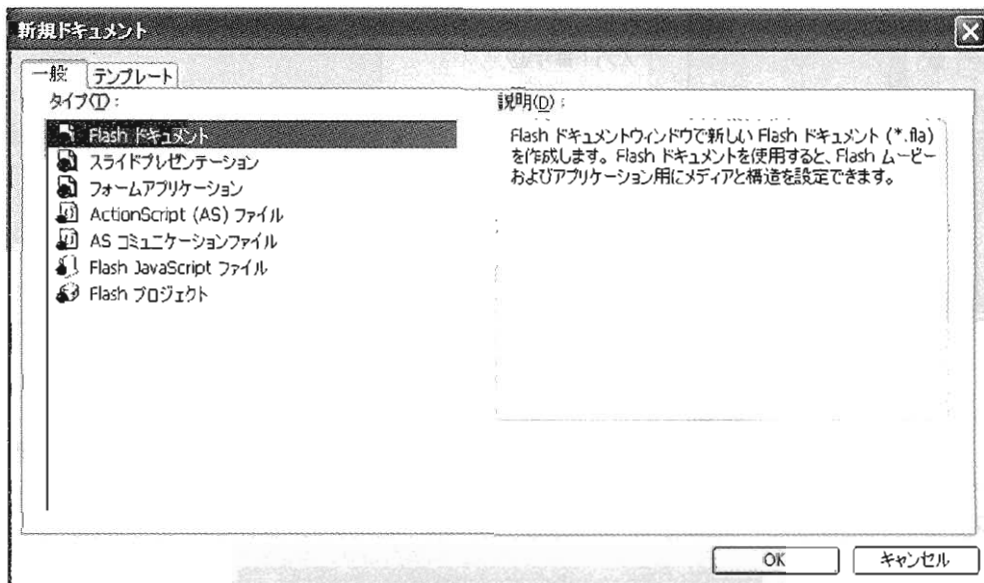
使用するアプリケーション: Flash MX 2004

次の手順でリッチコンテンツ作成用アプリケーション「Flash MX」を開きます。

→ [すべてのプログラム] → [Macromedia] → [Macromedia Flash MX2004]

[ファイル]メニューより[新規]をクリックすると、新規ドキュメントウインドウが表示されます。
ドキュメントタイプを選択します。

ここでは、[一般]タブより[Flashドキュメント]を選択します。



[ファイル]メニューより[読み込み]→[ステージに読み込み]を選択し、先ほど編集・保存した AVI ファイルを選択します。ウィザードに従い、読み込みを行います。

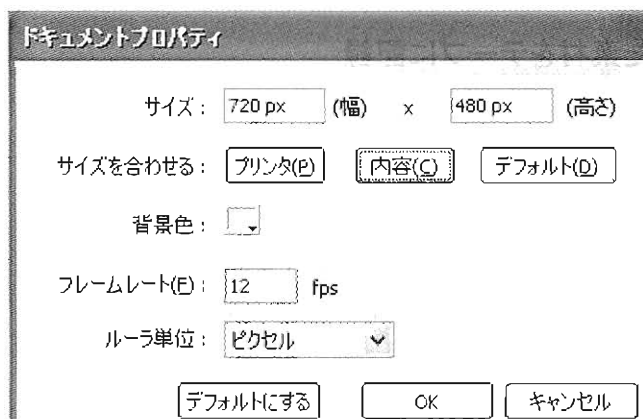


ドキュメントのサイズを、読み込んだ映像ファイルのサイズに合わせます。

ドキュメント内を右クリックし、[ドキュメントのプロパティ]をクリックすると[ドキュメントのプロパティ]ウインドウが表

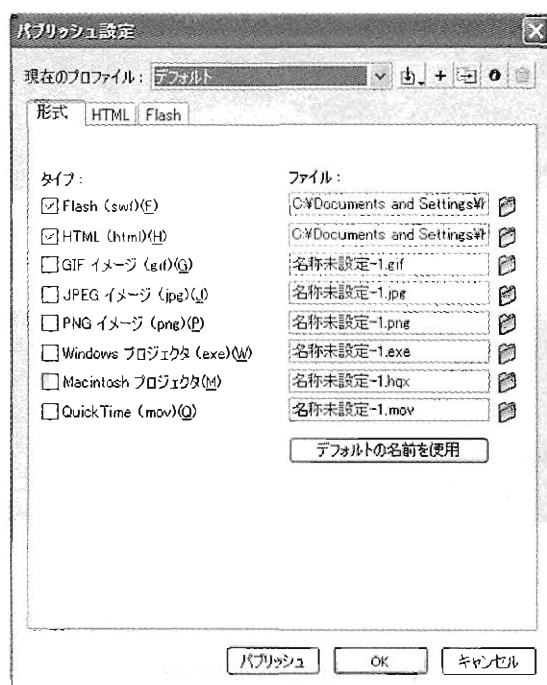
示されます。

[内容]ボタンをクリックし、[OK]ボタンをクリックします。



[ファイル]メニューより[パブリッシュ設定]をクリックします。

HTMLにチェックを入れます。(同時にFlashにもチェックが入ります。)ファイル欄で、保存する場所と名前を指定します。



HTML、Flashタブは必要に応じて設定し、パブリッシュボタンを押します。

指定した保存先にFlashムービーファイル及びフラッシュムービーファイルの表示に必要なタグが付いたhtmlファイルが作成されます。

- ① ここで作成したhtmlファイルは、「NetscapeComposer」や「Dreamweaver」などで編集できます。
- ② 「Flash MX 2004」では、web用アニメーションやコンテンツなどの作成も可能です。詳しくは、「Flashヘルプ」を参照してください。

- ④ ISCWWW サーバを利用した研究室のホームページ開設の手順につきましては、ISC ホームページ掲載の「研究室のホームページ作成」をご覧ください。

V. 編集した素材をテープに記録

編集した素材の書き出し

使用するアプリケーション: EDIUS

編集した素材(データ)は MiniDV や VHS 等のテープに記録することができます。

ビデオデッキの電源を入れ、録画可能な DV テープを挿入します。

次の手順でリアルタイムビデオ編集アプリケーション「EDIUS」を開きます。

スタート → [すべてのプログラム] → [Canopus] → [EDIUS] → [EDIUS LE]

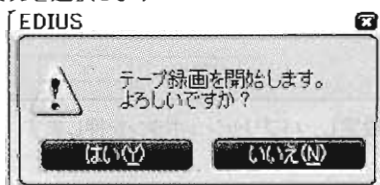
テープへ記録する DV/AVI 形式のファイルをピンウィンドウに配置し、モニタウインドウの[PLR]ボタンを押し、DV を選択します。



次に[RCD]ボタンをクリックし、エクスポート行うトラックを選択します。



[エクスポート]ボタンからテープに出力を選択します。



[はい]を押して、録画を開始します。ファイル再生終了後、デッキは自動的に一時停止されます。

DV テープへの出力時に、同時に VHS テープに出力することも可能です。(VHS テープに直接出力することはできません。) VHS テープへ出力する場合は、ビデオデッキ側で次の操作を行ってください。

- ①[VHS]ボタンを押す。②[DV→]ボタンを押す。③テープ録画開始時に[録画]ボタンを押す。④録画完了時に[停止]ボタンを押す。

研究発表用のオリジナルビデオの完成です。

ここまで、ISC の装置を利用したビデオ編集の方法を簡略にご紹介してきました。

以上のような手順で、研究結果を発表するためのリッチメディアな素材が作成できます。何だか便利そうだな、と思われた方は、ぜひ一度、ISC2 階のユーザーズルームで映像の取り込み・編集に挑戦してみてください。



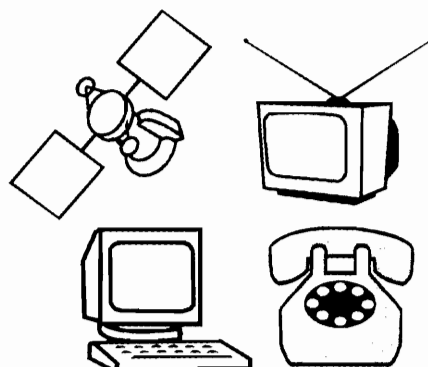
—PC と家電が繋がる時代？—

「デジタルホーム」「eHOME」などという言葉をよく見かけるようになりました。PC とデジタル家電を相互にネットワークで接続し、家の中のどこからでも自由にコンテンツが楽しめる環境の事です。

デジタルカメラでの写真撮影、テレビ番組のハードディスクへの録画など、家庭でのデジタルメディアの利用も、既に浸透しつつありますが、これから更に家電のデジタル化とネットワーク化が進めば、もっと手軽にどこからでも映像の編集・活用・再生ができるようになり、もっと広く配信することも可能になるでしょう。

かつて、ネットワークに接続せず、ワープロやゲーム機として利用される事が主流だった PC が、世界中のネットワークに繋がり、重要なコミュニケーションツールになったのと同様に、場所や時間にとらわれず、自由に映像メディアを選択して楽しめる時代が、もうすぐやってくるのかもしれませんが。

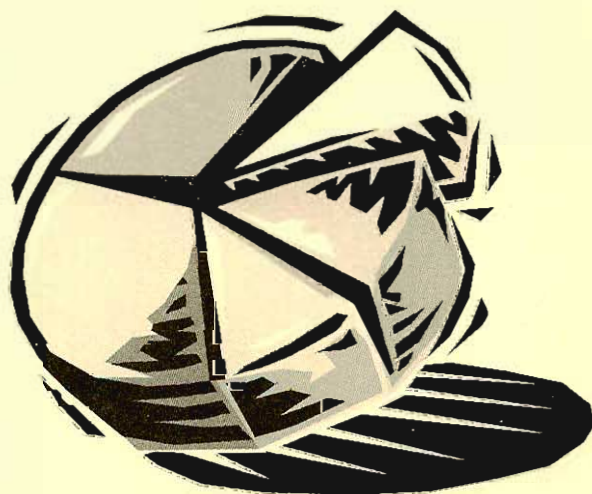
様々な情報媒体が溢れるこの時代、もっとも効果的な方法で情報が配信できれば、きっと社会に広く情報をアピールする力になってくれるはずです。





平成 15 年度運用報告

- 電子メール利用状況
- ISC 館内入室状況
- プロキシサーバ利用状況
- 端末接続作業
- 演算クラスタ利用状況

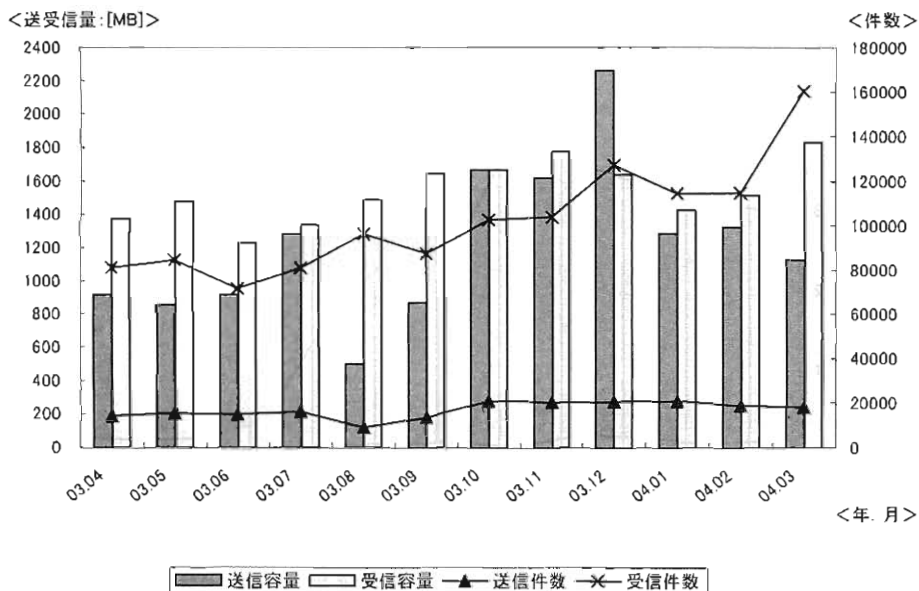


■ 電子メール利用状況

～寝屋川～

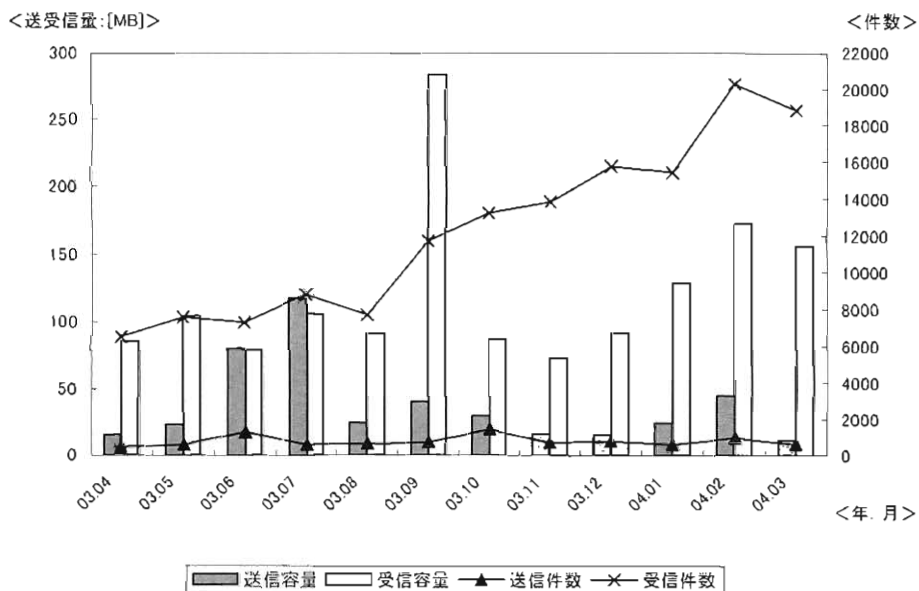
■ 学術系ネットワーク経由メールゲートウェイ

月別メール転送量・件数



■ 商用系ネットワーク経由メールゲートウェイ

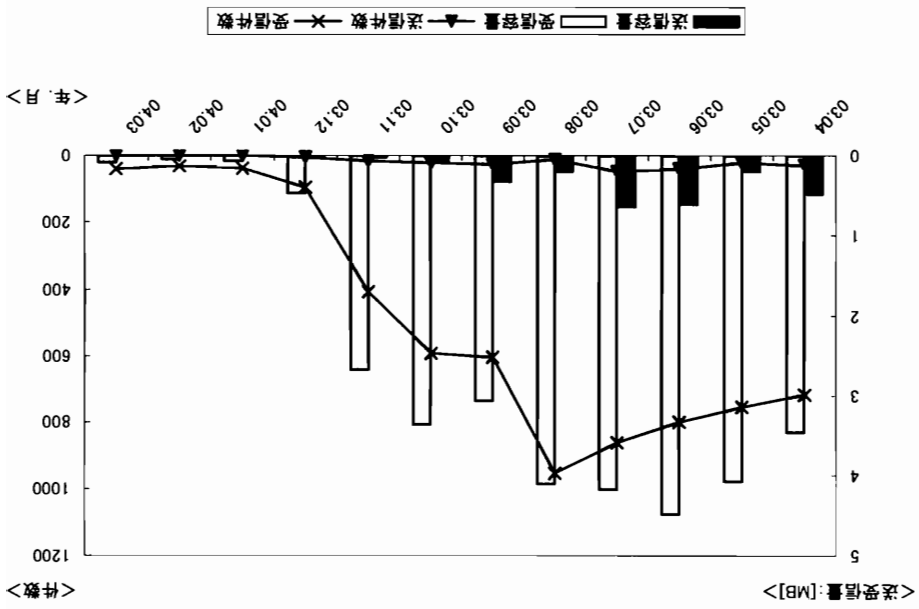
月別メール転送量・件数



※学術系ネットワーク経由メールゲートウェイで配送できなかった場合、商用系ネットワーク経由メールゲートウェイで配送します。

～四條驛～
■メールゲートウェイ

月別メール転送量・件数

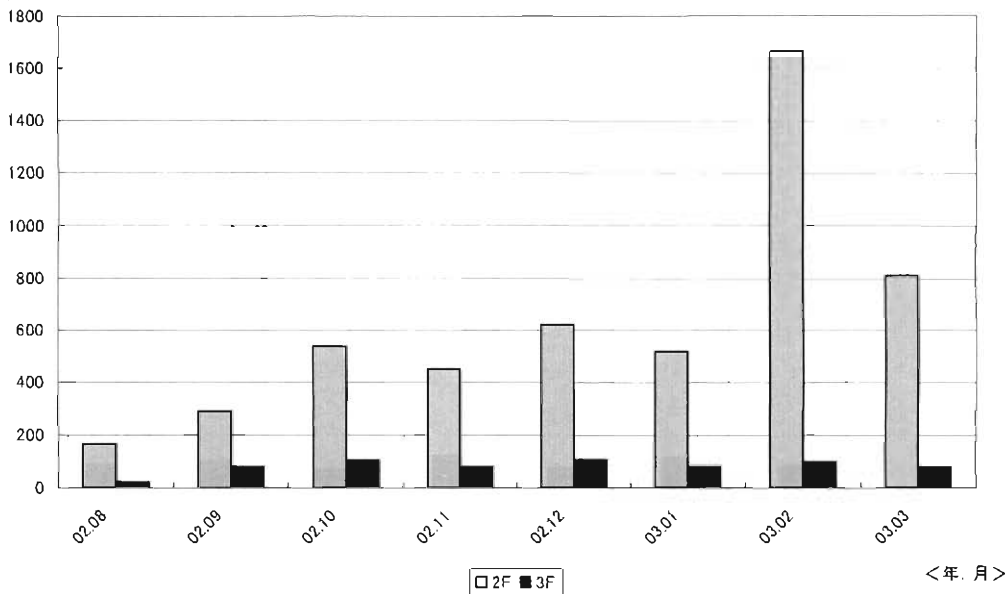


■ISC館内入室状況

(※入室管理用端末故障のため、2002年11月15日から2003年8月19日までのデータなし)

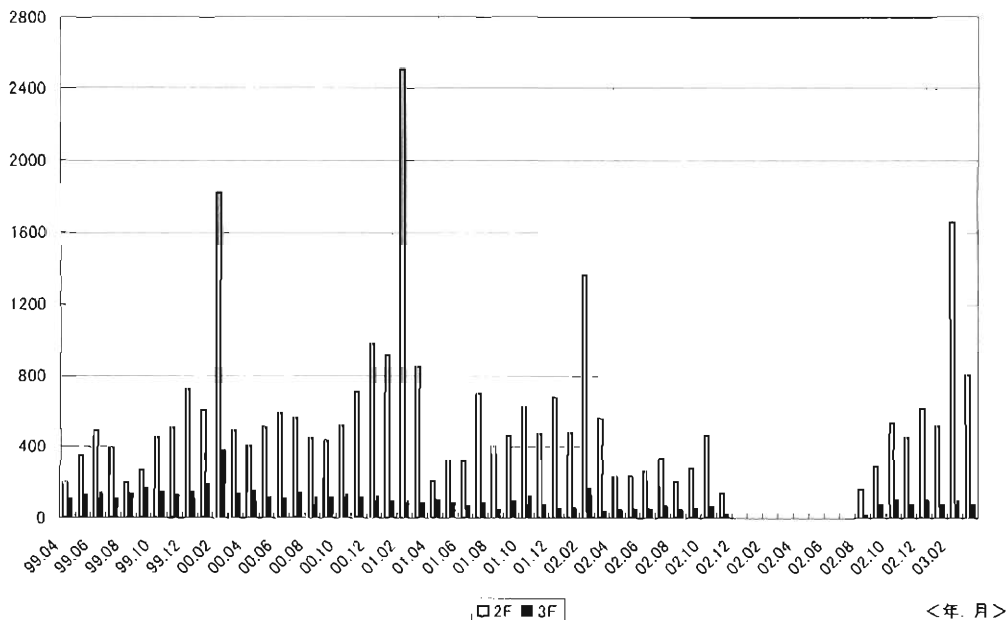
2003年度の入室件数

<単位:人>



過去5年間の入室件数推移

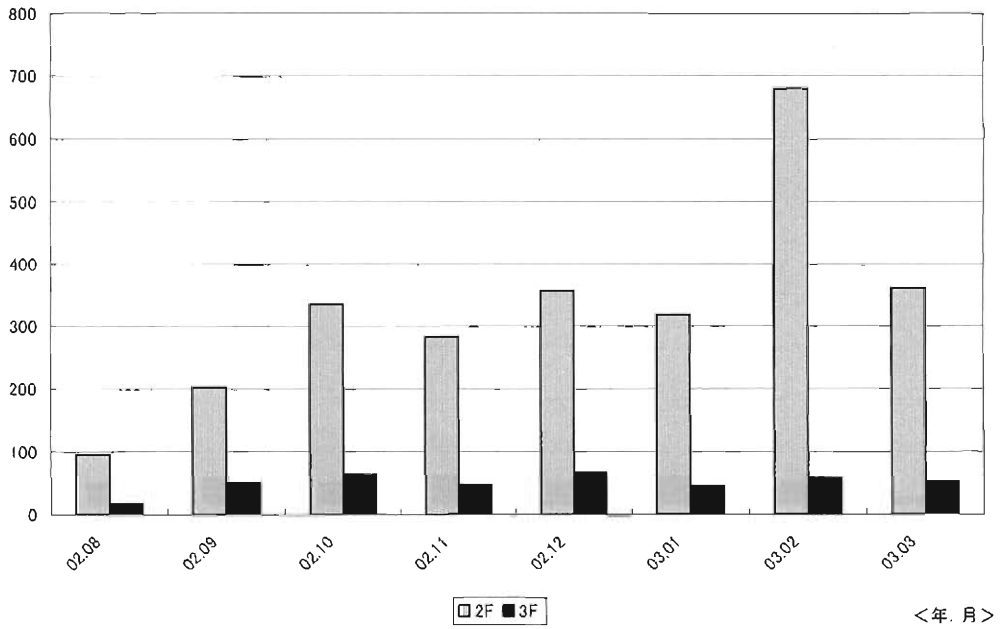
<単位:人>



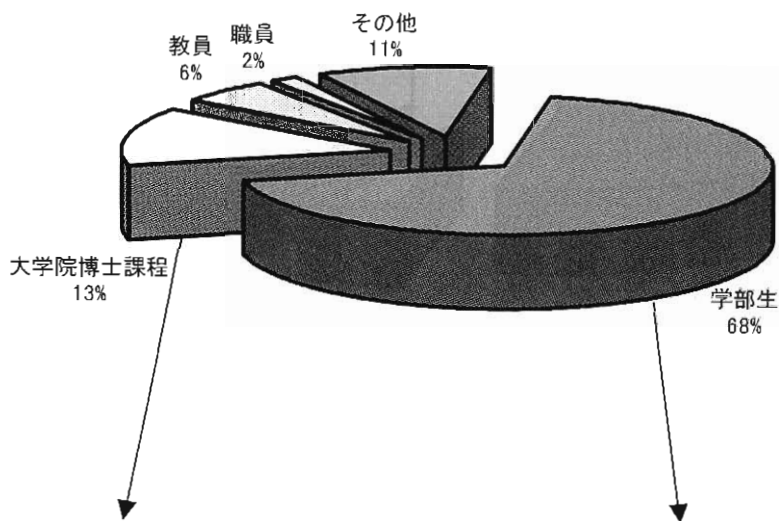
2003年度の実入館者数

(※同一日に同一人物が複数回入室した場合を1人としてカウントした数値)

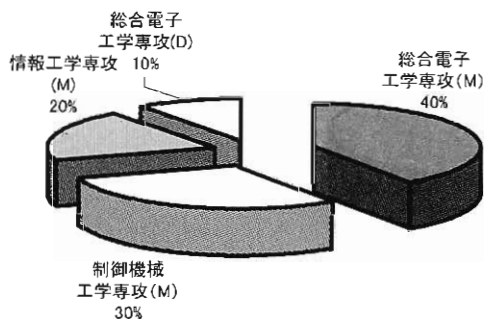
<単位:人>



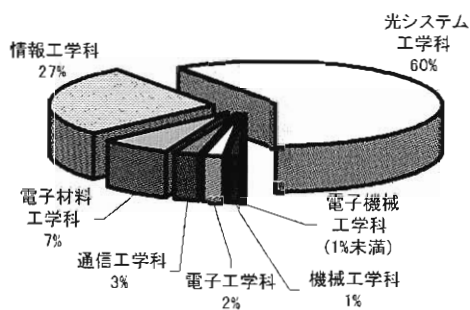
<入室件数利用者分類(2F)>



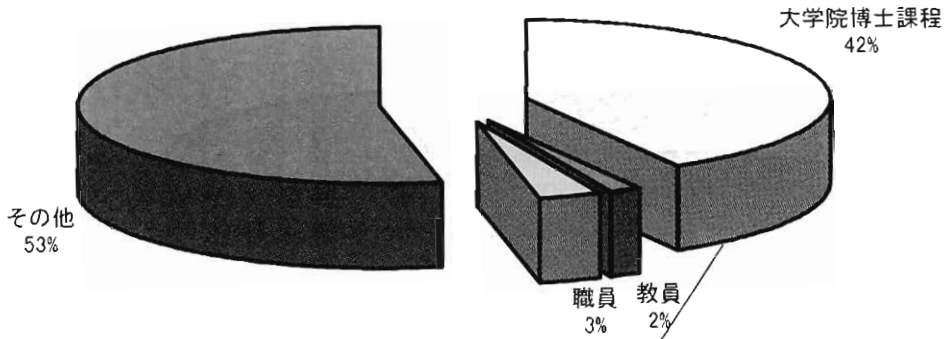
<大学院博士課程内訳>



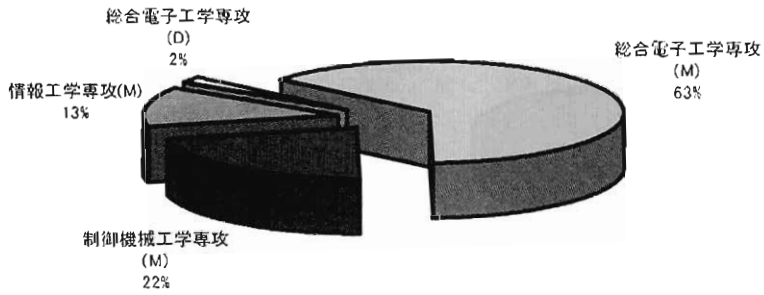
<学部生内訳>



<ISC入室件数利用者分類(3F)>



<博士課程内訳>



■プロキシサーバ利用状況

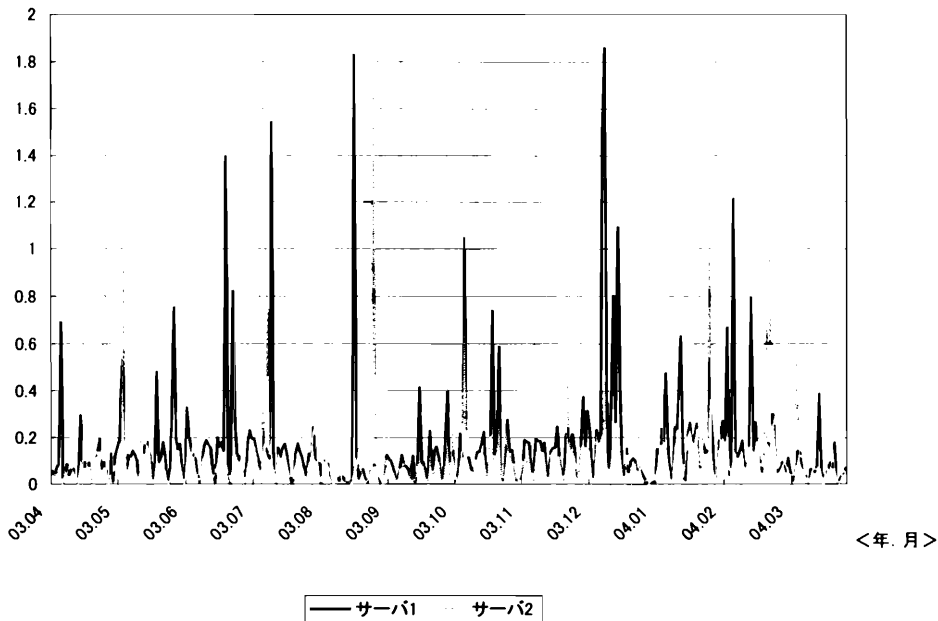
～寝屋川～

寝屋川学舎では、プロキシサーバを2台設置し、負荷分散をはかっています。

■学術系ネットワーク経由プロキシサーバ1, 2

転送サイズ

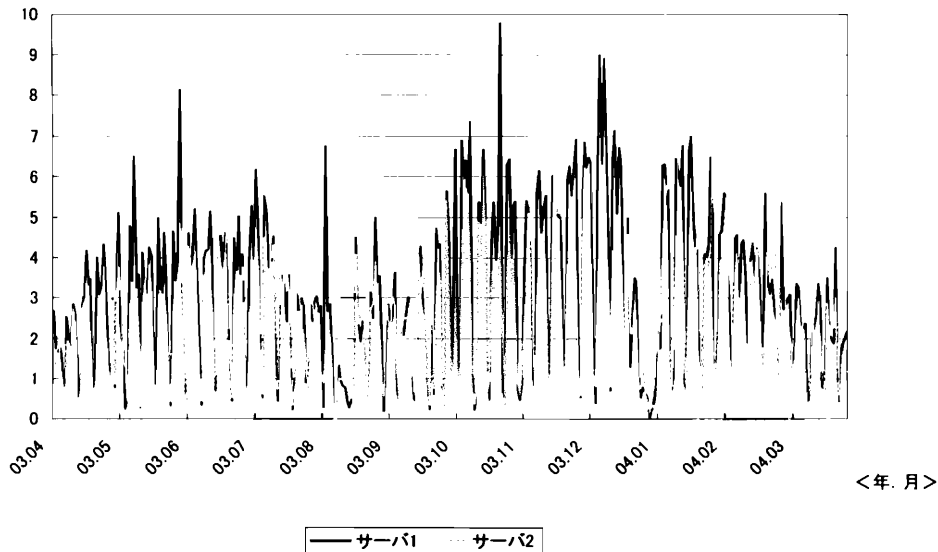
<単位:GB>



■商用系ネットワーク経由プロキシサーバ1, 2

転送サイズ

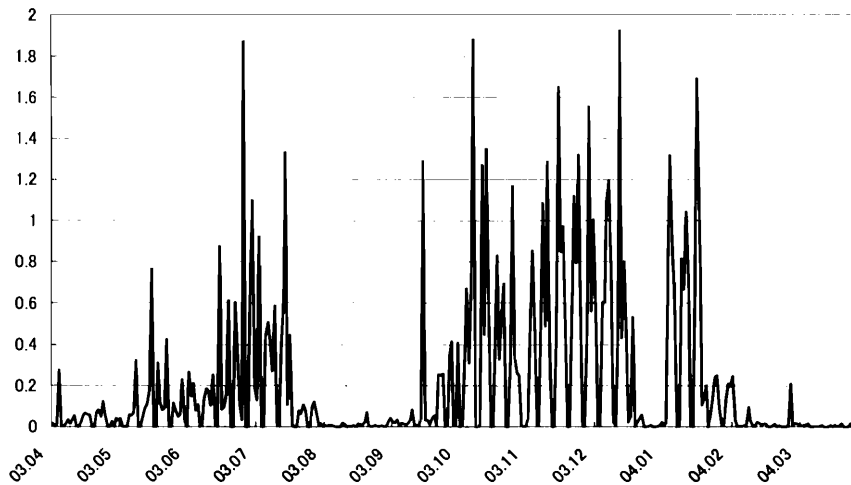
<単位:GB>



～四條畷～
■プロキシサーバ

転送サイズ

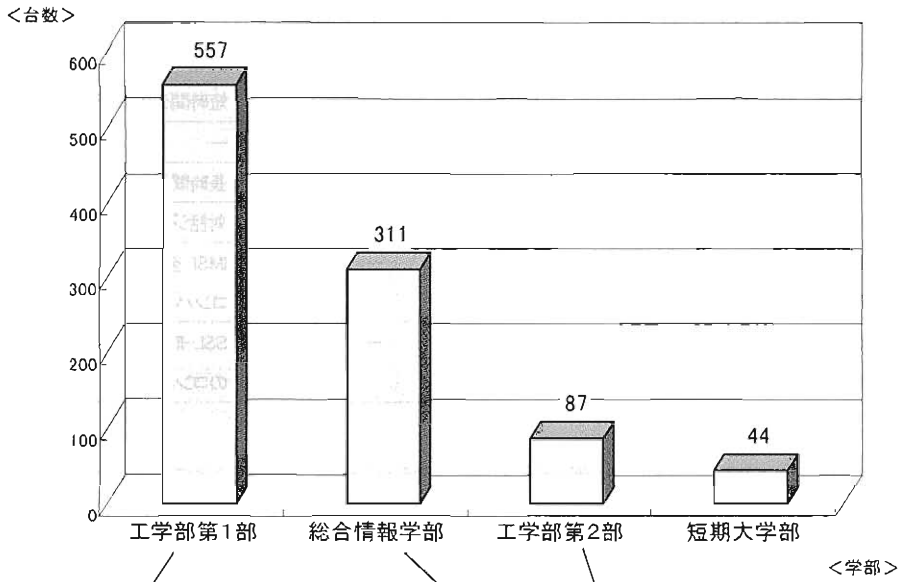
<単位:GB>



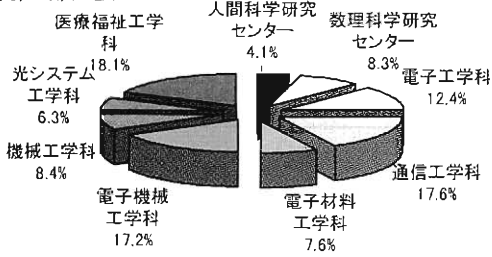
<年.月>

■ 端末接続作業

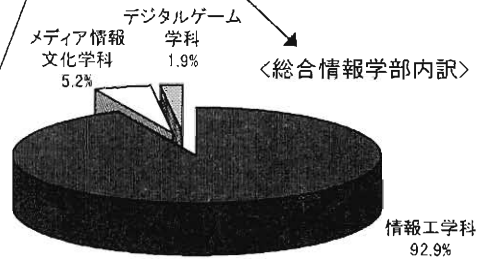
学部別接続作業台数



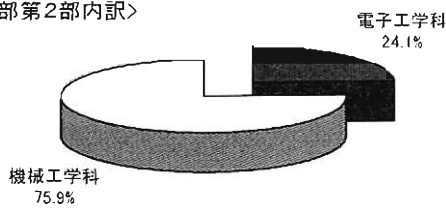
<工学部第1部内訳>



<総合情報学部内訳>



<工学部第2部内訳>



■ 演算クラスタ利用状況(キュー別)

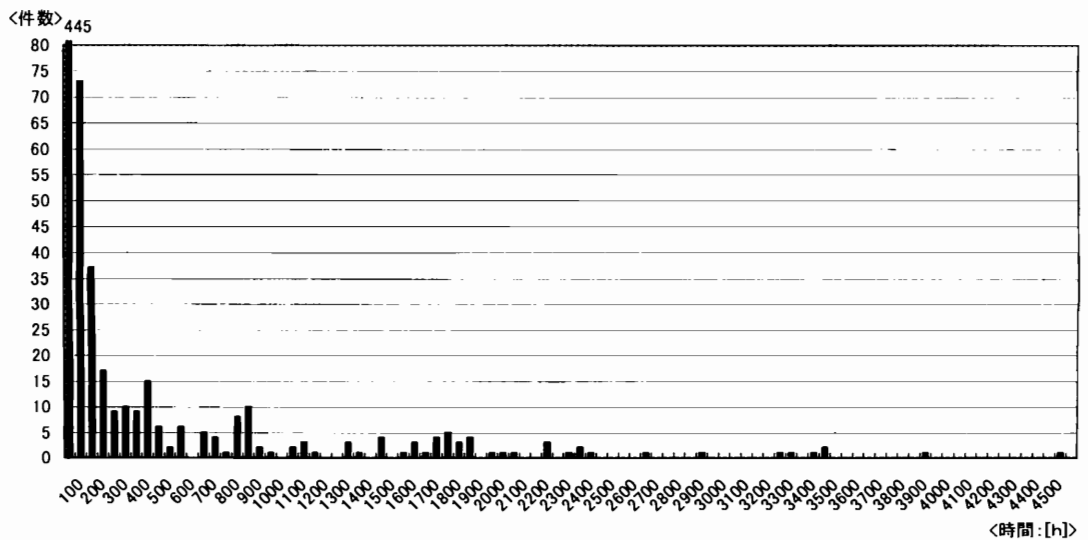
※ISC の演算クラスタシステムは 2002 年 1 月より運用を開始しました。
 ※現在 ISC の演算クラスタシステムには、次のような複数のキューを定義し、プログラムの実行時間や使用ライブラリ、対話操作(キー入力等)の有無に応じて、投入するキューをユーザに使い分けて頂いています。

キュー名	ジョブ実行ホスト	対話ジョブ実行	RUN 時間制限	CPU 時間制限	用途
short	計算サーバ	可	6 時間	—	短時間ジョブの実行
mid	計算サーバ	不可	1 週間	—	—
long	計算サーバ	不可	—	—	長時間ジョブの実行
inter	全ログインサーバ	可	—	2 時間	対話ジョブの実行
IMSL	IMSL 用ログインサーバ	可	—	—	IMSL を使ったプログラムのコンパイル
SSL2	SSL-II 用ログインサーバ	可	—	—	SSL-II を使ったプログラムのコンパイル

■ (キュー名:long)

ジョブ件数	1 時間以内のジョブ件数	最大値	最小値	平均
714 件	210 件	4469.2h	0s	230.6h

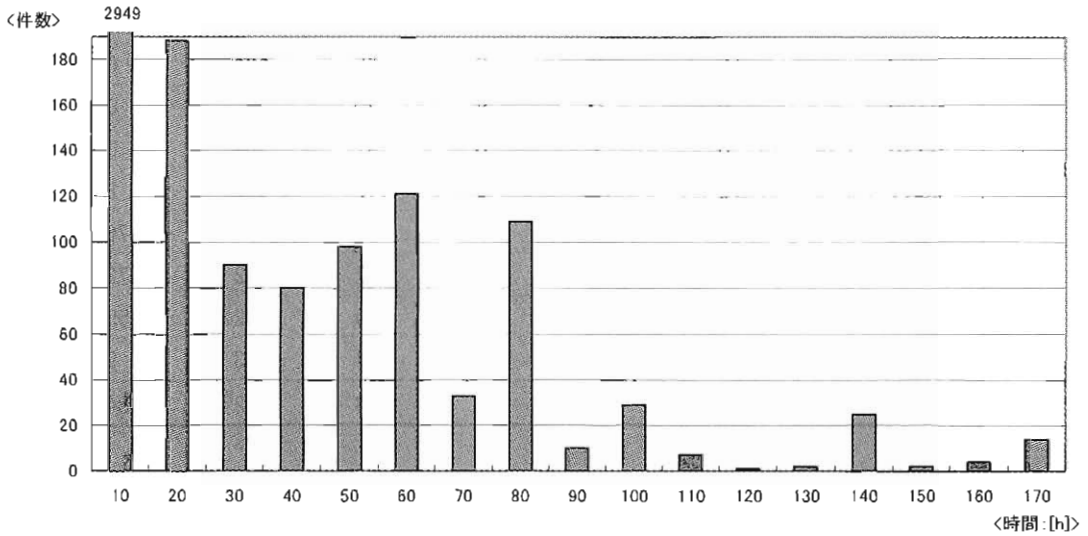
CPU時間別ジョブ件数(longキュー)



■ (キュー名 : mid)

ジョブ件数	1 時間以内のジョブ件数	最大値	最小値	平均
3762 件	1120 件	167.8h	0s	11.4h

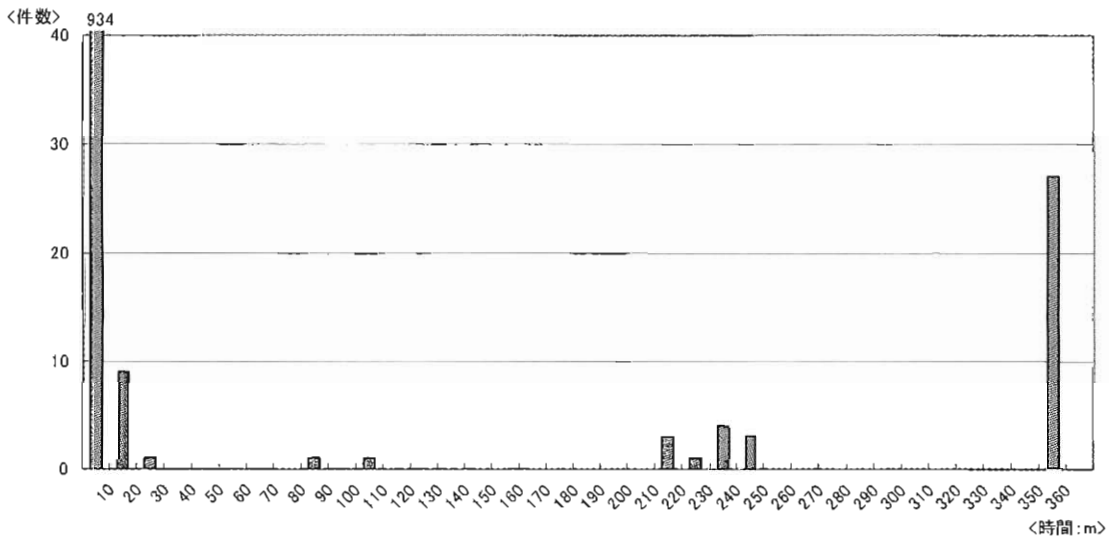
CPU時間別ジョブ件数 (midキュー)



■ (キュー名 : short)

ジョブ件数	最大値	最小値	平均
984 件	6.0h	0s	0.2h

CPU時間別ジョブ件数 (shortキュー)



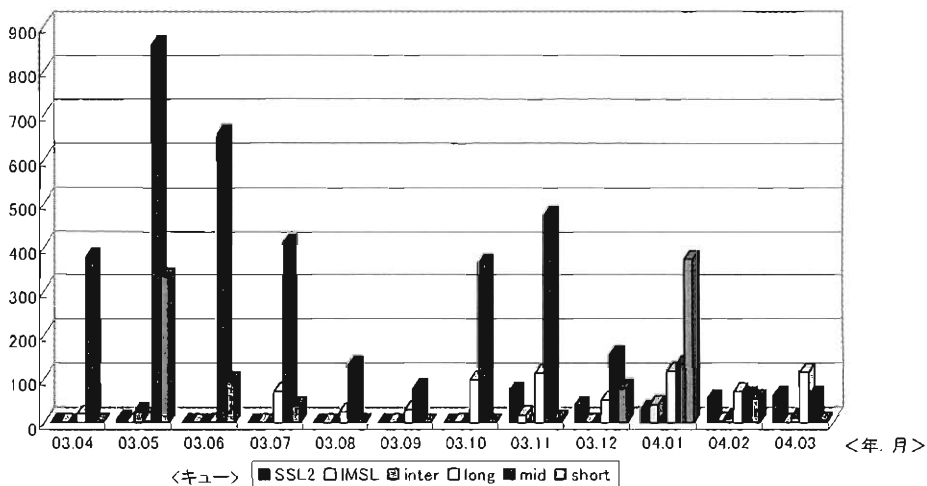
■演算クラスタ利用状況(月別)

<件数>

年月	SSL2	IMSL	inter	long	mid	short
03.04	0	0	0	20	378	0
03.05	8	0	26	4	860	332
03.06	0	0	0	2	657	94
03.07	0	0	0	72	409	40
03.08	0	0	0	25	131	0
03.09	0	0	0	30	79	0
03.10	0	2	0	97	364	0
03.11	72	18	0	112	473	8
03.12	39	0	0	51	154	78
04.01	30	41	2	117	132	372
04.02	55	4	11	70	62	55
04.03	62	0	12	114	63	5
Total	266	65	51	714	3762	984

月別ジョブ件数

<件数>





平成 15 年度活動報告

- 会議／説明会等の報告
 - 平成 15 年度運営委員会の報告
 - 平成 15 年度 ISC 利用説明会
 - 新任職員ネットワーク利用説明会
- ISC の発行物
 - テクニカルレポート
 - それゆけ！ISC
 - 新規発行マニュアル一覧



■会議／説明会等の報告

【平成 15 年度運営委員会の報告】

● 第 1 回 ISC 運営委員会

【日時】 5月7日(水)16:30

【場所】 ISC研究開発室 (M207号室)

【議題】

運営委員会に先立って、センター長より、本年度からISC事務室に岩崎友見、小谷共矢の2名が配属されたとの報告がなされた。また、新たに運営委員に任命されたデジタルゲーム学科の横山宏講師の紹介がなされた。

1. 学内ネットワーク運用に関する内規等変更

事務室長より資料に基づき説明がなされた。事前配布した資料に一部変更を加えたため、本日訂正版を配布させていただいた。内容的な変更はなく、表現の不明瞭な点の明示化を行ったのみである。

委員より、学内ネットワークの運用に関する基本ポリシーを明記すべきとの意見が出されたが、内規の範疇から外れるとの意見があり、内規とは別に議論することとなった。また事務局長より、体裁を法務関連部署と相談の上修正するの発言があり、最終案を再度運営委員会に報告することとなった。

委員より、WWWコンテンツの責任範囲について質問があった。これに対して計算サービス室長より、基本的にコンテンツ責任者が全責任を負うこととなるが、プロバイダ責任法に準じ、緊急対処が必要な場合の最終的な削除権限等はISCも持つとの回答がなされた。

2. 商用系接続の増速について

計算サービス室長より資料に基づき報告がなされた。4月30日に商用系回線のデジタル専用線4.5Mbpsから広域イーサネット回線10Mbpsへの切り替えを実施した。

委員より、資料中のグラフの見方について質問があった。これに対して計算サービス室長より、グラフは一日あたりの平均通信量を集計している。旧回線時は平均3Mbps/sとなっているが、夜間が含まれていることから日中はおそらく契約帯域一杯まで消費していると考えられるとの回答がなされた。また事務室長より、アップロードと比較してダウンロードが非常に多い点について、おそらくWebアクセスによる画像データ等のダウンロードが多いと思われるとの回答がなされた。

事務室長より補足として、回線変更直後の実測ではftpによるダウンロードにおいて、約9Mbit/s程度の速度となったとの報告がなされた。

3. URLフィルタ運用開始について

計算サービス室長より資料に基づき報告がなされた。従来利用していたWebフィルタリングサービスが廃止され後継サービスが提供されることとなったため、新サービスへの移行手続きを行った。

計算サービス室長より、「プロキシ・キャッシュ」カテゴリをテスト期間を設け遮断したいとの提案が出され議論がなされた結果、試験的に5月末まで同カテゴリを遮断設定し、問題等が発生した場合は事務室まで申し出ていただくこととなった。

4. 平成15年度予算配布について

事務室長より資料に基づき報告がなされた。昨年末の運営委員会で申請状況を報告したが、経費節減の折、消耗品、印刷費および雑費が大きく減額配布となった。

5. 各学科メーリングリストのメンバ確認について

事務室長より資料に基づき説明がなされた。所属を異動した教員の旧所属学科MLからの削除希望があれば申し出ていただきたい。また、配送先のメールアドレスについてはISC事務室で配布している「教職員メールアドレス一覧」に掲載するので、他の学内アドレスへ変更したい場合は申し出ていただきたい。

委員より、ISC事務室にて配布している「教職員メールアドレス一覧」を学内に公開してはどうかとの意見があり議論がなされた結果、事務室長より今回のメンバ確認結果を反映したものを冊子として全教職員に配布するとともに、今後は毎年度配布するとの回答がなされた。

6. 演算クラスタの統計について

事務室長より資料に基づき報告がなされた。1,2月のジョブ件数が非常に多いが、これは卒業研究発表の準備のためと考えられる。また、6,7月もジョブ件数がやや多くなっており、これは学会発表の準備のためと考えられる。

委員より、プログラムのコンパイルにもLSFを使用したほうがよいとアナウンスされているが、その場合にinterとshortキューの使い分けが難しいとの質問があった。これに対して計算サービス室長より、interキューは主にデバッグ用として、ログインサーバ上でジョブを実行したい場合に使用していただきたいとの回答がなされた。

7. 四條畷寝屋川間の回線増速について

事務室長より、学舎間接続回線の増速について説明がなされた。昨年末の運営委員会で承認されたことを受けて、複数キャリアの広域イーサネットサービスを比較した結果、費用面からNTTのワイドLANプラスサービスが妥当と判断し申込準備を進めている。従来は長期契約を結び割引適用を受けていたが、通信インフラ状況の変化をにらみ、今回は長期契約はしない。実施時期は夏季停電前後を予定しているが、技術面でいくつか懸念事項があるため、実切り替え以前に回線開通し、運用テストを実施する予定である。

委員より、回線変更後は四條畷学舎に学外公開用WWWサーバの設置が可能になるのかとの質問があった。これに対して事務室長より、可能となる予定であるとの回答がなされた。

8. 現行システムのリース期限等について

事務室長より資料に基づき説明がなされた。現行ISCシステムの機器リース期間が残り1年余であり、新規機器導入やリース継続等を決定する時期が近づいている。次年度予算申請までにシステム案を各種委員会に諮るためには、10月下旬までに運営委員会にて第一次案を決定する必要がある。

計算サービス室長より、前回のシステム更新時すなわち現行システムの立案時には時間的な制約もあったため、事務室から教職員対象のアンケートをとり、その結果を基にプランを作成して運営委員会に諮る形をとったが、今回は希望をとる手段も含め検討したいとの提案がなされた。

委員より四條畷学舎の設備を充実させて欲しいとの要望が出された他、いくつか要望が出されたが、事務室長より各学科の意見を運営委員の先生方を通じて集めていただく一方、全研究室についてアンケートを実施し、それらを受けて議論を進めていきたいとの提案がなされた。アンケートの内容については事務室にて草案を作成して運営委員に報告し、調整後配布して、6月9日(月)までを期限として意見を募ることとなった。

委員より、資料にあるUTP網の施工不良箇所について、具体的にどこかとの質問があった。これに対して計算サービス室長より、A号館のネットワーク機器ラック内のパッチ配線が特に厳しいとの回答がなされた。

● 第 2 回 ISC 運営委員会

【日時】 6月27日(金)17:15

【場所】 ISC研究開発室 (M207号室)

【議題】

1. 学内ネットワーク運用に関する内規等変更(審議事項)

事務室長より資料に基づき説明がなされた。WWWサービス運用に関する内規案については、事前配布資料から一部変更を加えたため、本日訂正版を配布させていただいた。前回の運営委員会において配布した案から、法務関連部署と相談し体裁の修正を行った。(承認)

2. 次期システムの検討について

事務室長より、新システム構築に関するアンケートの集計結果について、資料に基づき報告がなされた。

計算サービス室長より、Webメール利用に関する要望が高まっていることから、フリーソフトウェアのWebメールシステムの運用テストをISC内で行っているとの報告がなされた。可能であればシステム更新を待たずに実運用を開始したい。ただし、現行システムはWebメール利用を前提としておらず、ユーザ数の増加に対する速度低下等の問題があり、次期システムではその辺りを考慮する必要がある。

委員より、ECIPのシステムへインターネット経由でアクセス可能にして欲しいとの要望が出された。学内ネットワークとインターネットとの接続はISCから行っており、ISCは卒研生以上でなければ利用できないことから、低年次の学生が学外からECIPシステムを利用するためにはダイヤルアップ接続しか方法がなく、コンシューマ向けの広帯域回線が安価に提供されている昨今、何らかの方法でインターネット経由でECIPシステムを利用できる形態にして欲しい。これに対して計算サービス室長より、ECIP側と相談してみないとわからないが、技術的にはVPNシステム導入や、ISCとECIPシステムとのアカウント管理統合等の方法があり、いずれにしてもECIPと連携して検討していきたいとの回答がなされた。

生田委員より、部署内ネットワークへのプライベートIPアドレスの使用に関する要望について、当日配布の資料と共に説明がなされた。これに対して計算サービス室長より、ブロードバンドルータとプライベートIPアドレスを使用すれば直ちに安全性を確保しつつ柔軟な設定・接続を行えるということにはならない、現行のグローバルIPアドレスかつ申請ベースの運用を継続しつつ、接続サービスの実施を柔軟にする形を検討したいとの回答がなされた。

センター長より、今後次期システム構築にあたってWGを設置し議論していきたいとの提案がなされた。WGのメンバとして次の教員が指名され承認された。

水本センター長、河合利計算サービス室長、前山、生田、新川、北嶋、西川

3. その他

事務室長より、6月26日(木)朝に発生した学内ネットワークの通信障害について報告がなされた。W号館スイッチのハードウェア不調により基幹スイッチとの間で通信ループが発生し、26日8時から10時までの約2時間、学内ネットワーク全体の通信が不安定となった。ご迷惑をおかけして申し訳ない。W号館スイッチは24日(火)夕方一度故障し交換しており、交換後の機器に再度ハードウェア故障が発生し今回の事態を招いた。現在は対策措置を講じて運用しており、後日再交換する予定である。

● 第 3 回 ISC 運営委員会

【日時】 11月5日(水)16:30

【場所】 ISC研究開発室 (M207号室)

【議題】

1. 次期システムについて

センター長よりISC-WGでの議論と提案について、次のとおり要点説明がなされた。

- ・性能の陳腐化の激しい機器を置き換える一方、継続利用可能な機器は再リースし、導入および運用費用については、現行システムの95%以内を目標とする。
- ・Webメールシステムを本格導入する。
- ・ECIPと協力し、入学から卒業まで利用可能な統一的なメールアドレスを学生に提供できるシステムを構築する。
- ・取りまとめ会社としてIIJをお願いする。システム設計および運用を委託する。
- ・サーバスペック等詳細については、今後も引き続きISC-WGの先生方にご協力いただき、詰めていくこととしたい。

引き続き、計算サービス室長より資料に基づき詳細説明あり。

委員より、取りまとめをIIJに決定した経緯について質問があった。これに対して計算サービス室長より次の回答がなされた。ISC-WGでの議論と現行システムを提示し、IIJ、JIP、ProStorageの3社にシステム提案を求め、この3社からの提案内容を検討した結果、システム設計から運用までを技術的に委託可能と思われるIIJを選定した。

委員より、高宮実験棟への光ケーブル敷設の現状について質問があった。これに対して事務室長より、施設部と相談したところ新実験センター建築の一環として施設部側で検討したいとの話があり、ISC次期システムには含めないこととなったとの回答がなされた。

ISC-WGの決定どおりIIJを取りまとめ会社とし、資料にあるシステム案を煮詰めた上で、情報処理委員会に諮ることが了承された。

2. Webメールについて

センター長より資料に基づきWebメールの試験運用結果が報告された。委員より各学科からの意見として次の報告がなされた。使いやすく継続利用したい、学生への利用拡大を望む、日本語環境の整っていない海外の端末では文字化けが発生するので何らかの対策が必要である、添付ファイルのサイズ制限2MBを拡大して欲しい。

事務室長より、好評であるので教職員限定という形態のままで次期システム稼働まで試験運用を継続したいとの発言があり承認された。ただし、正式サービスとして提供するシステムに対して現システムからのデータ移行等が可能かどうかかわからないので、あくまで簡易的な利用にとどめていただきたい。

3. その他

- ・ISC管理の洋雑誌について

センター長よりISC管理の洋雑誌について、これまでの経緯説明あり。また、委員の先生方からのご意見を参考に、学長等と話をして結論をだしていき、その結果アンケート等を行う可能性もあるので、その際はご協力をお願いしたいとの発言あり。

- ・マルチメディアPCへのソフトウェアインストールについて

委員より、ECIPでサイトライセンスを取得しているMathematicaをISC2階のマルチメディアPCにインストールして欲しいとの要望あり。これに対して事務室長より、早急に対応させていただくとの回答がなされた。

・次年度予算について

事務室長より、次年度予算について発言あり。今回承認された次期システム等について盛り込んだものを作成する。また、その他の項目については、基本的に例年どおりとする。

● 第 4 回 ISC 運営委員会

【日時】 11月19日(水)16:20

【場所】 ISC研究開発室 (M207号室)

【議題】

1. ISC洋雑誌の取り扱いについて

11月14日教授会での承認事項に基づき、ISC管理の洋雑誌の取り扱いについて議論がなされた結果、全教員に対して次の通りアンケートを実施し、選定を行うこととなった。

- ・基本的に最近行われた図書館のアンケート方式に準じる。価格を含めた洋雑誌一覧表を配布し、購入を希望する雑誌を選定してもらい、順位づけして点数を付与してもらう形とする。
- ・回答期間は一週間とし、期限を過ぎた回答は無効とする。
- ・一覧表にない雑誌はアンケートの対象としない。
- ・現行予算枠のおよそ1/2の範囲で、合計点数の高い雑誌から順に購入対象とする。
- ・同点等、調整の必要が生じた場合はセンター長がそれを行う。

局長より、早急にアンケートを実施し集計すれば、今年度発注および来年度予算策定に反映できるのではないかと発言あり。これを受けて事務室長より、週明けには配布したい、今週中に案内文書を作成して委員の先生方にメール等でお送りするので、確認をお願いしたいとの回答あり。

2. その他

・NetNews記事の学外配送について

計算サービス室長より次の提案あり。これまで記事配送を受けていた大阪大学が本年6月に配送サービスを廃止した。このためSINETから配送を受ける準備をすすめてきたが、SINET側の事情により記事配送を受けられない状態が現在まで続いている。学内からの苦情も特になく、利用者が非常に少ない状況であることから、学外との記事配送を廃止したい。

審議の結果、特に異論もなく承認された。

・マルチメディアPCへのMathematica導入について

事務室長より次の報告あり。前回の運営委員会において要望のあったISC2階マルチメディアPC4台へのMathematica導入が完了した。学内への広報等はこれから実施する予定である。

・ISC次期システムについて

委員よりISC-WGにおいて詳細検討中の次期システムについて、事務室長よりISC-WGメーリングリストに投稿された電子メール中のサーバ用CPUのスペック表現について質問あり。これに対して計算サービス室長より、演算サーバの現行モデル搭載「最速」CPUとはXeon3.06GHzであるとの説明あり。関連して、ネットワーク系サーバは価格を抑えるために一段階性能を下げた2.8GHzCPU搭載モデルを候補としているとの説明あり。

● 第5回ISC運営委員会

【日時】 2月6日(金)12:00

【場所】 ISC研究開発室 (M207号室)

【議題】

1. 次期システムについて

事務室長より、情報処理委員会に提出した資料について、説明がなされた。

委員より、P学科用機器がシステム構成に含まれているのは何故かとの質問あり。これに対して事務局長より、情報コンセント教室関連機器の保守契約費用をISC予算に含めている都合であるとの回答あり。

委員より、Webコンテンツのウィルスチェックを行う予定があるかどうか、ウィルス対策ソフトウェアをクライアントPCに導入するかどうかの判断材料として教えていただきたいとの質問あり。これに対して計算サービス室長より、専用サーバを設置する必要もありコスト的な面から現在は考えていない。また、電子メールのスキャンについても学外→学内へのチェックを前提にしており、学内のやりとりはチェックされない。いずれにしてもクライアントPCへのウィルス対策ソフトウェア導入は必要と考えるとの回答あり。

2. ISC洋雑誌について

事務室長より資料に基づき報告あり。前回の運営委員会の決定通り、ISCから全教員にアンケートを実施して順位付けを行い、網掛け部分を購入対象と決定した。また、事務局実施のアンケートにおいて※を購入対象と決定した。ここで、2004年度価格の欄が「図書館購入予定」はISCアンケートの結果に関わらず図書館で購入するもの、「2004年発行未定」は発行されるかどうか不明確なものである。◆はW学科で購入して10号館の図書スペースに配架されるものである。配架場所は「図書館購入予定」は図書館、それらを除いた網掛け部分と※がISCとなる予定である。

委員より、バイオメディカル系の一部雑誌を四條畷学舎に配架できるよう配慮いただけないかとの要望あり。また、購入した洋雑誌はISC管理となるのかとの質問あり。これに対して事務局長より、どちらも各方面の調整が必要となるので、事務局の検討事項とさせていただきたいとの回答あり。

3. 大判プリンタ運用について

事務室長より資料に基づき説明あり。ISC2階に大判プリンタを追加設置し、現在は仮運用として課金なしで提供している。課金額を決定するにあたり、メーカーホームページのデータを基に運用コストを算出した。様々なサイズ、種類の用紙に対応しているが、サイズをA1、種類をプレミアムマット紙固定として、他の館内プリンタ同様に課金額を単一に設定したいと考えている。

センター長より、用紙サイズに関係なく1枚あたり100円を課金することとしたいとの提案があり、承認された。

委員より、運用開始時期について質問あり。これに対して事務室長より、課金計算を月末締めとしているので、3月1日より正式運用とし課金を開始するとの回答あり。

委員より、枚数ベースで計算するのであれば、A1を超えるような長い出力の場合にどう計算するのかとの質問あり。これに対して事務室長より、あくまで出力枚数で課金する、また用紙持参の場合は課金なしとしたいとの提案があり、承認された。ただし、用紙持参の場合は交換作業が必要になるため、事務室まで連絡をいただき対応するとの発言あり。

4. 平成16年度予算について

事務室長より資料に基づき説明がなされた。予算申請以降の大きな変更として、対四條畷学舎、高宮校地回線を、ワイドLANプラスからダークファイバ借用へ変更することとなった。

委員より、対SINETの高速デジタル回線を変更し増速する等の計画はないのかとの質問あり。これに対して事務室長より、SINET側にルータを設置し広域イーサネット接続へ変更することを検討している。接続先である大阪大学との距離が比較的遠いこともあり、費用面から10M程度を考えている。次期システムへの更新作業が落ち着いてから実施したいと考えているとの回答あり。

委員より、校舎建て直し等は考慮されているのかとの質問あり。これに対して事務室長より、ISCとしてはあえて考慮はしていない。理由として、建物内の配線等は、施設部側の全体工事費の中で考えてもらえる方向になってきているので、ISCとしては建物の接続までを考慮しているとの回答あり。

委員より、情報コンセント工事の頻度について質問あり。これに対して事務室長より、教室情報コンセントの修理が主であり、その他、研究室情報コンセント破損時の修理等がほとんどであるとの回答あり。

5. SoftEtherについて

計算サービス室長より、教授会で質問のあったSoftEtherというソフトウェアの取り扱いについて、資料に基づき説明がなされた。元々はVPN用として開発されたソフトウェアであるが、組織内外をセキュリティを無視して仮想的に直結できるため、使い方によっては非常に危険なソフトウェアと言える。しかも、検知が極めて困難であり、管理者側から禁止することは、現状では難しい。学外の人間が学内へ自由にアクセスできるわけではないが、学内の人間が安易に設定すると学内全てが危険にさらされるため、利用者呼びかけて利用禁止とするのが妥当と考える。

委員より、セキュリティ上危険である一方、共同研究先マシンを遠隔利用可能である等便利な面もあり、将来的に同様の手法で安全なシステムが実現された場合には利用したいとの意見あり。また、技術的にはISCのVPNサービスと類似しているのではとの意見あり。これに対して計算サービス室長より、研究上必要なのであれば事務室まで相談をいただきたい、VPNにも同様に危険なところがあるが、それ以上に危険であるとの回答あり。また事務室長より、VPNサービスの利用にあたってはISCへの申し込みが必要であり利用者を把握できる。SoftEtherについては、学内においてよくわからないまま安易に利用されてしまうのを防ぎたいとの回答あり。

以上の議論を受けてセンター長より、SoftEther及び類似のソフトウェアの学内ネットワークにおける利用を禁止したいとの提案があり、承認された。

6. その他

・プリンタのメンテナンスについて

事務室長より資料に基づき報告あり。卒業研究の活発化による大量利用に備えて、館内プリンタについて臨時にメーカー保守を実施した。ただし、モノクロレーザプリンタはメーカーより予防保守はできないとの回答があり、実施していないがご了承いただきたい。

・10号館ネットワーク機器について

事務室長より次の報告あり。W学科10号館ネットワーク機器の予算処理について、初年度は法人事務局予算であるが、来年度以降は大学事務局予算となるのに伴い、大学事務局よりISC予算に含めて処理することが可能かどうか相談があった。基本的に差し支えないと考えており、詳細が決まり次第改めて報告する。

・機械創成工学演習作品発表会のストリーミング配信について

事務室長より次の報告あり。J学科の機械創成工学演習の発表会の模様をインターネット配信することになり、ECIPのマルチメディア機器を使って配信準備がすすめられている。ISCとしては体育館等のネットワーク設定切り替えを行いサポートする予定である。

・教室の情報コンセントについて

委員より、授業のなかで学生にWWWホームページを見せるために、年間1~2回教室設置の情報コンセントを利用しているが、毎年PCの設定を設定してもらう等の手間がかかるので、接続時にパスワード認証するなど簡易

に利用できるシステムにならないかとの要望あり。

これに対して計算サービス室長より、ISCとしても以前より利便性の高いシステムにできないかどうか検討を重ねているが、今のところなかなか良い形のものがない。今後も引き続き検討していきたいとの回答がなされた。

【平成 15 年度 ISC 利用説明会】

ISC 利用資格のある本学の学生を対象に、ISC の設備と学内ネットワークの利用・マナーに関する説明会を実施しました。

【日程】 4 月 21 日（月）、4 月 22 日（火）、4 月 23 日（水）、4 月 24 日（木）、4 月 25 日（金）

【場所】 C206・E352 教室

【新任職員ネットワーク利用説明会】

平成 15 年度新任職員の方を対象に、ネットワークの利用・マナーに関する説明会を実施しました。

【日程】 4 月 14 日（月）

【場所】 ISC 研究開発室（M207 号室）

■ISCの発行物

【テクニカルレポート】

平成 15 年度は下記の内容でテクニカルレポートを発行しました。

受付番号	ISC2003-01	表 題	ニューロ回帰モデル、リサンプリング、そして診断
著 者	辻谷 将明, 青木 雅彦		
概 要	<p>ニューロ回帰モデル、リサンプリング、そして診断</p> <p>辻谷 将明[†] 青木 雅彦^{††}</p> <p>Neural Regression Model, Resampling, and Diagnostics</p> <p>Masaaki TSUJITANI[†] and Masahiko AOKI^{††}</p> <p>あらまし 本稿では、教師あり学習(Supervised Learning)としてのロジスティック回帰モデルを階層型ニューラルネットワークとの相互補完的な範疇で捕らえる。具体的には、ニューロン間のリンク荷重(Connection Weight)を未知パラメータとみなし、尤度原理による統計的推測を行う。更に、ブートストラッピングやクロスバリデーションなどのリサンプリング法を援用し、隠れ(層の)ユニット数の決定、モデルに不適合な影響観測値の検出、およびモデル適合の改善を試みる。</p> <p>キーワード 階層型ニューラルネットワーク、ブートストラッピング、クロスバリデーション、逸脱度、影響分析</p>		
<p>[†] 大阪電気通信大学総合情報学部, 寝屋川市 Faculty of Information Science & Arts, Osaka Electro-Communication University, 18-8 Hatsucho, Neyagawa-shi, 572-0833 Japan</p> <p>^{††} 明治製菓 臨床統計部, Pharmaceutical Division, Meiji Seika Kaisha, LTD., Solid Square, West Tower 4F, 580 Horikawa-Ku, Kawasaki, 212-0013 Japan</p>			

受付番号	ISC2003-02	表 題	Multiple-group neural discriminant model and bootstrapping
著 者	Masaaki Tsujitani		
概 要	<p style="text-align: center;">Multiple-group neural discriminant model and bootstrapping</p> <p>Masaaki Tsujitani*</p> <p><i>Faculty of Information Science & Arts, Osaka Electro-Communication University, Osaka, JAPAN</i></p> <hr/> <p>Abstract</p> <p>In the present article, the role of bootstrapping is examined for nonlinear discriminant analysis using a feed-forward neural network model for data of mutually exclusive groups and a set of predictor variables (which is referred to as a <i>multiple-group neural discriminant model</i>). Statistical techniques are formulated in terms of the principle of likelihood of the neural network model, in which the connection weights of the network are treated as unknown parameters. We demonstrate herein that the criterion based on bootstrapping is favorable when selecting the optimum number of hidden units, thereby considering the neural network to be an approximation of an underlying model. No standard procedures exist by which to assess the overall goodness-of-fit of the neural discriminant model. By introducing the maximum likelihood principle, the deviance allows us to test the goodness-of-fit of the model. Since no adequate distribution theory exists for the deviance, we provide bootstrapping on the null distribution of the deviance for the neural discriminant model having the optimum number of hidden units with a specified significance level. We then provide the estimators of the bias of excess error for the model. In addition, we examine the discrimination results of the <i>test</i> sample for the neural network built by <i>training</i> sample through thyroid disease database.</p> <p><i>Keywords:</i> Feed-forward neural network model; Bootstrapping; Deviance; Error rate estimation; Overfitting</p> <hr/> <p>* <i>E-mail address:</i> tsujitani@isc.osakac.ac.jp</p>		

受付番号	ISC2003-03	表 題	カラーカメラを用いた油彩画の表面特性推定と画像生成への応用
著 者	田中 法博, 駒田 隆之, 富永 昌治		
概 要	<p>カラーカメラを用いた油彩画の表面特性推定と画像生成への応用</p> <p>田中法博 駒田隆之 富永昌治 {norihiro, komada, shoji}@tmlab.osakac.ac.jp</p> <p>大阪電気通信大学 総合情報学部</p> <p>Estimation of Surface Property of Oil paintings by Using Color Camera and Its Application to Image Rendering</p> <p>Norihiro Tanaka, Takayuki Komada and Shoji Tominaga Department of Engineering Informatics, Osaka Electro-Communication University</p> <p>あらかし</p> <p>汎用カラーデジタルカメラを用いて分光反射率に基づいた油彩画の記録を行い、それをコンピュータグラフィックスで画像再現する手法を提案する。また油彩画表面の質感は、絵具の盛り上がりによる凹凸や光沢が質感に大きな影響を受けるが、これらは3次元反射モデルを用いて記録・再現する。油彩画は照明方向を変えて複数枚計測し、油彩画の(1)分光反射率(2)表面形状、(3)反射モデルパラメータ(表面粗さ、鏡面反射の強さ)を推定する。油彩画表面の分光反射率の推定精度は、分光放射輝度計の計測結果と比較して調べる。表面形状の推定精度はレーザー顕微鏡による直接計測法との比較で検証する。最後に、実際の油彩画についてリアルな画像を生成して視覚的に提案手法の妥当性を確認する。</p>		

受付番号	ISC2003-04	表 題	多水準構造データへの線形混合モデルの適用
著 者	森脇 俊文, 猪原 正守, 山来 寧志		
概 要	<p style="text-align: center;">多水準構造データへの線形混合モデルの適用</p> <p style="text-align: center;">森脇 俊文, 猪原 正守, 山来 寧志 大阪電気通信大学大学院工学研究科・情報工学専攻</p> <p>多水準の構造をもったデータの解析は、統計的品質管理の分野において工程解析における分散成分の推定との関係で用いられることがある。Goldstein(1979)は、分散成分モデルの拡張モデルである線形混合モデルを多水準構造データへ適用する方法を提案し、一般化最小 2 乗法のための推定アルゴリズムを提案した。ここでは、統計的品質管理の分野に Goldstein(1979)の提案した線形混合モデルを適用するため、一般化最小 2 乗法によるパラメータ推定アルゴリズムを提案する。そのアルゴリズムは、Goldstein(1986)が提案した Gauss・Newton 法によるアルゴリズムに比べ収束の速さに関して劣るが、反復アルゴリズムは簡単な行列計算のみを用いるため汎用データ処理ソフトにおいて適用可能なものである。また、提案する推定アルゴリズムが有効に機能することを人工的な数値例によって明らかにする。</p>		

【それゆけ！ISC】

ISC スタッフが入手した新鮮で役立つ情報を「それゆけ！ISC」で随時お知らせしています。平成 15 年度は下記の 4 号を発行しました。

1. 0025 号 10 月 3 日
Microsoft を騙るウイルスメールにご注意！
2. 0026 号 1 月 20 日
Windows ユーザ必見！Bagle ウィルスにご注意！
3. 0027 号 1 月 28 日
新種ウイルス情報 Mydoom ウィルスにご注意！
4. 0028 号 3 月 30 日
緊急！全世界で感染拡大中！Netsky ウィルスにご注意！！

【新規発行マニュアル一覧】

〔館内設置〕

- PX-7000 利用方法
- PX-7000 印刷見本
- PX-7000 印刷見本について

〔事務室配布/ホームページ掲載〕

- ISC 館内のプリンタの便利な利用方法
- パスワードの取り扱いに関するご注意
- Web メール利用手順書（暫定版）



資料

- 情報科学センター規則
- 情報科学センター運営委員会規則
- ISC で閲覧できる専門書籍
- その他



■情報科学センター規則

昭和55年2月1日制定
最近改正 平成6年4月1日

第1条 この規則は、大阪電気通信大学学則(以下「学則」という)第45条第5項の規定に基づき、情報科学センター(以下「ISC」という。)の組織等に関し、必要な事項を定めるものとする。

第2条 学則第45条第1項に掲げる業務を行うため、本ISCに次の室を置く。

- (1) 計算サービス室
 - (2) 研究開発室
 - (3) 事務室
- 2 計算サービス室は、学則第45条第1項第1号および第3号の業務のほか、同第4項に定める連絡所の業務を行うものとする。
- 3 研究開発室は、学則第45条第1項第2号の業務を行うものとする。
- 4 事務室は、ISCに事務に関する業務を行うものとする。

第3条 削除

第4条 ISCの運営に関する重要事項について、センター長の諮問に応ずるため、ISCに情報科学センター運営委員会をおく。

- 2 運営委員会に必要な事項は別に定める。

第5条 第2条第1項の各室にはそれぞれの長をおく。

- 2 計算サービス室長および研究開発室長には本学教授または助教授をもつて充てる。
- 3 事務室長は技術職員または事務職員をもつて充てる。

第6条 ISCの利用は、次の各号に掲げる場合に限るものとする。

- (1) 本学の教員の研究のために利用する場合
- (2) 本学における教育のために利用する場合
- (3) 本学内の事務処理のために利用する場合
- (4) その他、学長が必要と認めた場合

第7条 ISCは、前条各号の利用に対し、利用負担金を徴収することができる。

第8条 その他ISCの利用に関し必要な事項は、センター長が定める。

附則 この規程は、昭和55年2月1日から施行する。

附則 この規程は、昭和60年4月1日から施行する。

附則 この規則は、平成4年4月1日から施行する。

附則 この規則は、平成6年4月1日から施行する。

■情報科学センター運営委員会規則

昭和55年2月1日制定

最近改正 平成7年5月27日

第1条 この規則は、情報科学センター規則第4条第2項の規定に基づき、情報科学センター運営委員会に関し必要な事項を定めるものとする。

第2条 運営委員会は、次の各号の委員で組織する。

- (1) 各室の室長
- (2) 本学教員のうちから学長が任命した者 若干名
- (3) その他、学長が任命した者 若干名

2 前項第1号以外の委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

第3条 運営委員会は、センター長が招集して議長となる。

2 センター長に事故のあるときは、あらかじめ指名された委員がセンター長の職務を代行する。

第4条 運営委員会は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

第5条 運営委員会は、必要に応じ委員以外の者の出席を求めて意見を聞くことができる。

第6条 運営委員会の事務を処理するため、運営委員会に幹事をおき、センターの専任事務職員を充てる。

第7条 その他、運営委員会の議事の方法等に関し必要な事項は、運営委員会が定める。

附則 この規程は、昭和55年2月1日から施行する。

附則 この規則は、平成7年5月27日から施行する。

■ISCで閲覧できる専門書籍（2004年1月～12月）

ISC3F 大学院専用情報フロアには、情報科学関連の最新の雑誌、学会誌等があり、これらの閲覧ができます。

☞ 洋雑誌

1. Acta Informatica.	DEU
2. Annals of Mathematics, Ser. 2	USA
3. Artificial Intelligence.	NLD
4. Cognitive Science.	USA
5. Communications on Pure and Applied Mathematics.	USA
6. Computer Networks.	NLD
7. Cybernetics and Systems Analysis.	USA
8. Discrete Applied Mathematics.	NLD
9. Distributed Computing.	DEU
10. Image and Vision Computing.	USA
11. International Journal of Human-Computer Studies.	GBR
12. International Journal of Intelligent Systems.	USA
13. International Journal of Parallel Programming.	USA
14. Journal of Algorithms.	USA
15. Journal of Combinatorial Theory, Series A	USA
16. Journal of Combinatorial Theory, Series B	USA
17. Journal of Graph Theory.	USA
18. Journal of Information Science.	NLD
19. Journal of Mathematical Analysis and Applications.	USA
20. Journal of Parallel and Distributed Computing.	USA
21. Mathematics of Computation.	USA
22. New Generation Computing.	DEU
23. Physics in Medicine and Biology.	GBR
24. SIAM Journal on Applied Mathematics.	USA
25. SIAM Journal on Computing.	USA
26. SIAM Journal on Discrete Mathematics.	USA
27. SIAM Journal on Numerical Analysis.	USA
28. Spatial Vision.	NLD
29. The Computer Journal.	GBR
30. Theoretical Computer Science.	NLD

☞ 学会誌

1. ACM Transactions on Programming Languages and Systems.	USA
2. Pattern Recognition.	USA

※発行遅延等の事情により発行未定のもの、また図書館購入予定のものは除いています。

資料

■ 和雑誌

- | | |
|-------------------------|----------|
| 1. INTERNET magazine | インプレス |
| 2. UNIX USER | ソフトバンク |
| 3. UNIX MAGAZINE | アスキー |
| 4. Linux magazine | アスキー |
| 5. MAC POWER | アスキー |
| 6. DOS/V POWER REPORT | インプレス |
| 7. ASCII 月刊アスキー | アスキー |
| 8. Windows Server World | IDG ジャパン |
| 9. 合格情報処理 | 学習研究社 |

■その他

【ISCの構成員】

センター長	水本 雅晴
研究開発室長	水本 雅晴(兼)
計算サービス室長	河合 利幸
事務室長	小池 達男
事務職員	浅島 浩太
	小谷 共矢
	橋本 寛美
	岩崎 友見

【ISC運営委員】

人間科学研究センター	小田 康徳
数理科学研究センター	奥村 康昭
電子工学科	榎本 正義
通信工学科	村上 泰司
電子材料工学科	榎本 博行
電子機械工学科	前山 祥一
機械工学科	吉田 晴行
光システム工学科	生田 孝
医療福祉工学科	新川 拓也
情報工学科	北嶋 暁
メディア情報文化学科	杉森 直樹
デジタルゲーム学科	横山 宏
工学部第2部	光本 浩士
短期大学部	西川 明男
事務局長	浪越 宏治
情報処理教育センター 事務室長	早野 秀樹
情報科学センター 計算サービス室長	河合 利幸
情報科学センター 事務室長	小池 達男

編集・発行

2004年12月

大阪電気通信大学 情報科学センター

〒572-8530 大阪府寝屋川市初町18-8

TEL 072-824-1131(代)

FAX 072-824-1142

URL <http://www.osakac.ac.jp/isc/>

印刷所

サツキ印刷株式会社



カカ行

<http://www.osaka.ac.jp/isc/>